



アキレスのCSR 2017

Contents

- 02 目次／このレポートについて
- 03 トップメッセージ
- 04 会社概要／事業拠点／連結売上高・利益年度別推移
- 05 事業内容／沿革
- 06 企業理念／アキレスのCSRの基本的な考え方／アキレスのCSR重要テーマ
- 07 アキレスグループのCSR重要テーマと活動目標・実績
- 08 数字で見るアキレスグループ／各事業場での取り組み
- 10 特集1
CSR対談
- 12 特集2
アキレスの「足育(そくいく)」活動
- 16  環境のために
- 20  社会と共に
- 30 社会との共通価値創造につながる取り組み
- 33  マネジメントについて
- 36 第三者意見
- 37 特集2データ編「足育(そくいく)活動 出前講座 実績一覧」
- 38 環境のために〈データ編〉

このレポートについて

報告書対象範囲

アキレス株式会社および国内子会社・海外子会社
※範囲が異なるものについては個別に明記します

報告対象期間

2016年4月～2017年3月

発行時期

前回：2016年9月
今回：2017年9月(2020年3月 P17訂正)
次回：2018年9月(予定)
※年1回発行

参考にしたガイドライン・ 原則・技術規定

ISO-26000(社会的責任に関する手引)
ISO-14001(環境マネジメントシステム)

編集方針

アキレスグループは『顧客起点』のもと、お客様の真の満足と感動を戴ける製品の創造とサービスの提供を通して、豊かな社会の実現に貢献する」という企業理念を定め、「健康」「快適さ」「楽しさ」を感じることができる製品やサービスを提供することが、グループにとっての重要な課題であると位置づけています。また持続可能な社会の発展に貢献する活動として、「省エネルギー化」や「地球温暖化防止」にも積極的に取り組んでいます。これらの課題への対応には株主様、お客様、お取引先様、従業員などさまざまなステークホルダーとの連携が重要であると考えています。本レポートでは、ISO-26000を活用して取り組みのチェックを行いながら、グループの主なCSR活動に関する詳細な情報をESG(環境、社会、ガバナンス)で分類し、パフォーマンスデータと共に活動報告として記載しています。

CSR報告ツールについて

本誌

アキレスのCSRの考え方や取り組みについて、詳細に紹介しています。



アキレスのCSR Webサイト

アキレスのCSR

検索

<https://www.achilles.jp/csr/>

創業70年を迎え、思いは原点への回帰

靴造りにこめた創業時の熱い思い

当社は戦後の混乱の最中ゴム加工会社として創立し、今年で70年を迎えました。ゴム長靴や布靴、自転車チューブなど身近な製品を通して、できるだけ社会に貢献したいとの思いがありました。特に現在の社名にもなっているギリシャ神話の英雄「アキレウス」の弱点をカバーする靴を提供することで、元気で強い子供に育ててほしいとの願いもあったようです。

お客様に笑顔を！ 社会に役立つ会社でありたい！

その後、さまざまなチャレンジを行い塩化ビニール製品やウレタン製品など生活に密着した製品を開発・提供してまいりました。その根底には企業理念にも掲げていますが、社会とともに生きていく（社会との共生）、そのためにはお客様の声を真摯に聞き、本当に満足していただい、感動してもらえる製品・サービスを提供すること（顧客起点）があります。

私たちの約束、強くしなやかに

最近、ある大学の先生から米国企業の求める人物の能力について話を聞きました。最も重要なのは誠実（Genuine）であり、入社後の研修で徹底的に教え込まれるとのことでした。私の新入社員時代もお客様から「誠実な対応が一番」だと言われ、そのときのことを今でも強く思い出します。

誠実な対応はCSRにもつながることだと思います。社員一人ひとりの考えや行動が撚りあって事業を牽引する強いロープを生むのが理想と言えるでしょう。そのためには「世界的な規模での環境問題」、「社会的課題」、「世の中の流れ」をきちんと把握し、お客様や社会が求める製品やサービスを継続して提供できるように、会社体制をもっとより良いものにするのを、アキレスグループ全社員が約束したいと思います。

2017年9月

代表取締役社長 伊藤 亨



会社概要

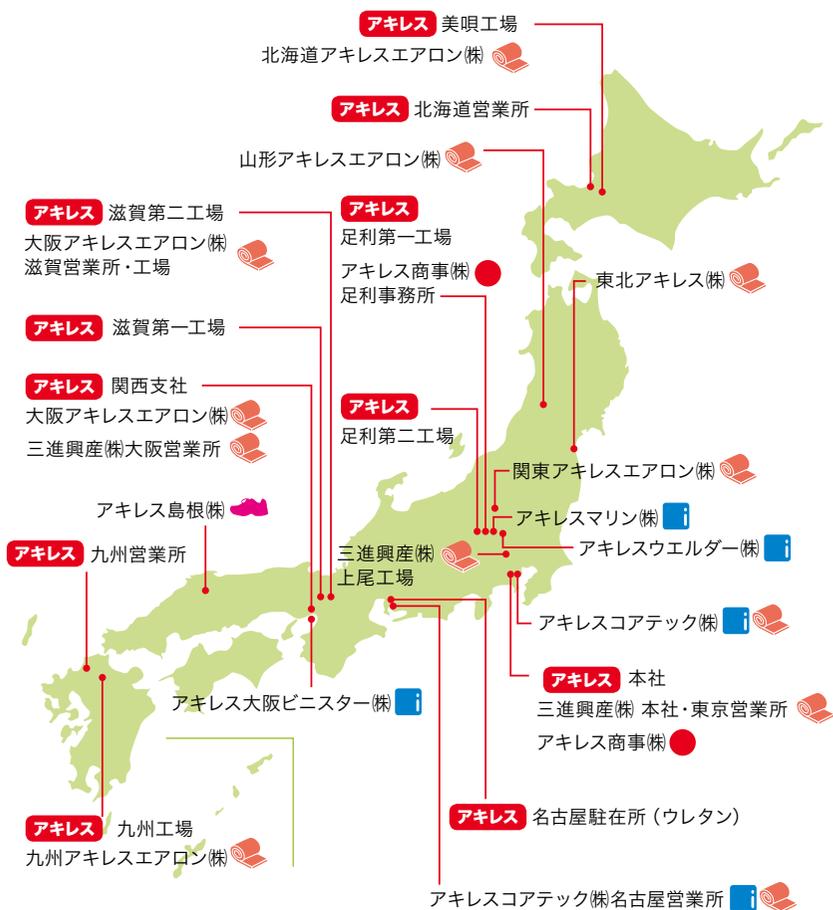
設立 1947年5月
 代表者 代表取締役社長 伊藤守
 資本金 146億4千万円
 従業員数 1,755人(連結)
 ※2017年3月末
 上場証券取引所 東京証券取引所
 (市場第一部)

本社所在地 〒169-8885
 東京都新宿区北新宿2-21-1 新宿フロントタワー
 事業所 販売拠点 東京、大阪、北海道、愛知(ウレタン)、福岡
 生産拠点 栃木(2拠点)、滋賀(2拠点)、北海道、福岡
 ※各拠点の詳細な住所は以下URLでご確認下さい。
<https://www.achilles.jp/company/>

事業拠点

アキレス アキレス(株)拠点
 子会社事業説明 (シューズ事業部門) (プラスチック事業部門) (産業資材事業部門) ● (その他)

日本



※その他関係会社7社

アジア

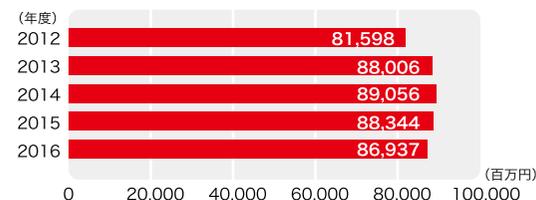


アメリカ

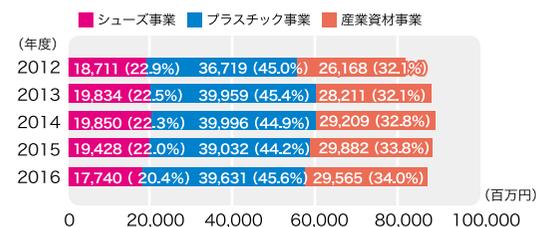


連結売上高・利益年度別推移

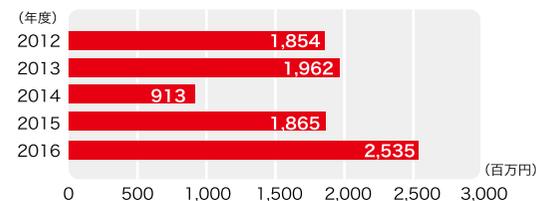
売上高



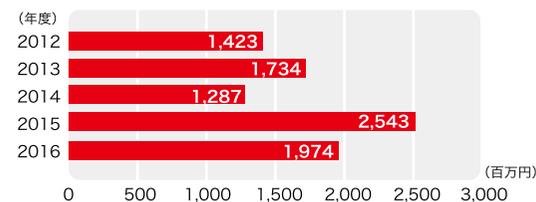
セグメント別



営業利益



親会社株主に帰属する当期純利益



※その他、財務情報および大株主に関する情報は有価証券報告書をご参照ください

事業内容

シューズ事業部門

シューズ事業部

キッズ、メンズ、レディースシューズ



プラスチック事業部門

車輻資材事業部

車輻内装用資材、一般塩ビレザー、合成皮革など



化成成品事業部

一般用・工業用・農業用フィルムなど



建築事業部

建築用内装資材



引布販売部

防災テント、ポート、住宅排水管用フレキシブルジョイントなど



産業資材事業部門

ウレタン事業部

軟質ウレタン発泡製品、および2次加工製品



断熱資材事業部

硬質ウレタンフォーム断熱製品、現場発泡用硬質ウレタンフォーム、発泡スチロール断熱材など



工業資材販売部

静電気対策製品、反応射出成形品など



開発営業部

「アキレスTn-p工法」などインフラ関連技術、「グラレス」



沿革

1947年 5月	資本金2,000千円をもって興国化学工業株式会社を設立、本店を東京都中央区日本橋とし、工場を足利市に置き、ゴム製品の製造、販売を開始
1948年 4月	塩化ビニール製品の製造、販売を開始
1956年 6月	大阪市に大阪支店(現・関西支社)を開設
1957年 4月	足利市に山辺工場(現・足利第一工場)を建設
1962年 4月	ウレタン製品の製造、販売を開始
1962年 9月	東京証券取引所市場第一部上場
1963年 1月	当社独自の合成皮革(カブロン)の製造に成功、販売を開始
1965年11月	ニューヨークに現地法人アキレスK.C.I. Corp.を設立(1978年11月解散)
1969年 7月	足利第二工場を建設。車輻内装材と硬質ウレタンシェル等産業資材部門製品の製造に着手
1973年 3月	壁紙分野へ進出
1973年10月	滋賀県豊郷町に関西工場(現・滋賀第二工場)を建設、ウレタン工場稼動
1973年11月	米国ワシントン州にKOHKOKU USA, INC. (現・連結子会社ACHILLES USA, INC.)を設立
1974年 8月	北海道美唄市に美唄工場を建設、ウレタン工場稼動
1978年11月	滋賀アキレス株式会社より生産設備を譲り受け、当社滋賀第一工場として稼動
1981年 6月	アキレスマリン株式会社(現・連結子会社)を設立
1982年 2月	商号を変更しアキレス株式会社とする
1989年 1月	福岡県飯塚市に九州工場を建設
1992年 1月	中国に広州崇徳鞋業有限公司(現・連結子会社)を設立
1993年12月	中国に合弁会社昆山阿基里斯人造皮有限公司を設立
1998年12月	導電性素材「STポリ」の生産を開始
2002年10月	中国に阿基里斯(上海)国際貿易有限公司(現・連結子会社)を設立
2008年 2月	台湾に阿基里斯先進科技股份有限公司(現・連結子会社)を設立
2015年 2月	本店を現住所に移転
2015年 2月	山形アキレスエアロン(株)を設立

企業理念

「社会との共生」

||

「顧客起点」

「顧客起点」のもと、
お客様の真の満足と感動を戴ける製品の
創造とサービスの提供を通して、
豊かな社会の実現に貢献する。

アキレスのCSRの基本的な考え方

「私たちが目指しているもの」

それは、企業に社会に未来に、新たな価値を創り続けていくことです。そして、豊かで快適な社会づくりに貢献できる会社でありたいと願っています。

私たちアキレスグループは『「顧客起点」のもと、お客様の真の満足と感動を戴ける製品の創造とサービスの提供を通して、豊かな社会の実現に貢献する』という企業理念を定め、持続的な成長と企業価値の創造・増大に努めています。私たちを取り巻く社会環境は、世界経済のグローバル化、地球環境保全への対応、日本をはじめ世界各地で多発する自然災害の猛威など、経験したことのないようなスピードで変化しています。このような社会環境の変化のもと、豊かで快適な社会づくりに、アキレスグループはどのような貢献ができるのか、真価が問われています。

私たちは創業以来培ってきたプラスチック加工技術をさらに向上・進化させ、お客様により身近な製品、獨創性のある製品をご提案してまいります。

「私たちが大切にしているもの」

それは、元気に育ってほしい、いつまでも元気でいてほしいという「健康」、暮らしやすい住環境にしたいという「快適さ」、使ってみて楽しいという「楽しさ」、もっと資源を大切にしたいという「省エネルギー」をキーワードに、新たな価値の増大を追求するため知恵と工夫で製品・サービスを創造し、お客様のご要望にお応えし続けたいという思いです。

豊かで快適な社会づくりに貢献できる会社であり続けるためたゆまぬ改善を重ね、全てのステークホルダーの皆様の信頼とご期待にお応えしてまいります。

アキレスのCSR重要テーマ

アキレスでは、ISO-26000の7つの中核主題に基づき、自社にとって重要度の高い取り組みを「CSR重要テーマ」と位置づけています。

「消費者課題」

1 製品・サービスを通じた 真の満足と感動の提供

製品における安全性確保や品質向上に取り組み、社会の要請に応え感動を与えるモノづくりを追求します

「環境」

2 環境への取り組み

CO₂、水、廃棄物などの環境負荷低減、森林や生物多様性などの環境保全に取り組みます

「公正な事業慣行」

3 取引先との協働

取引先を含めたサプライチェーン全体における取り組みや、公正な事業活動を推進します

「人権」と「労働慣行」

4 人権や多様性の尊重と グローバル人材の育成

人権に配慮し多様な人材を活用しグローバル人材を育成します

「人権」と「労働慣行」

5 安全で働きやすい健康的な職場環境

安全で健康に働くことのできる職場づくりに取り組みます

「コミュニティ参画・発展」

6 地域との関わりと社会貢献活動

地域社会とのコミュニケーションや社会貢献活動を重ね、地域の発展に貢献します

「組織統治」

7 ガバナンス・リスクマネジメント

経営の透明性を高める制度の強化、リスク対策に取り組みます

アキレスグループのCSR重要テーマと活動目標・実績

ISO-26000 7つの中核主題	CSR 重要テーマ	活動方針	2016年度の活動目標	2016年度の活動実績	自己 評価 ^{※1}
消費者課題	製品・サービスを通じた真の満足と感動の提供	製品における安全性確保や品質向上に取り組み、社会の要請に応え感動を与えるモノづくりを追求します	有害物質の排除など、製品デザインレビュー時の安全審査の徹底	PRTR ^{※2} 法対象物質の管理/製品素材の安全性審査の実施/全製造工程パトロールによる品質管理/景品表示法遵守の環境整備(規定整備と研修実施)/カタログ・取扱説明書の現地語対応(輸出製品が対象)/注意・警告に関する表示の見直し推進(ポート製品)/廃棄物削減活動の地域社会への訴求/省資源・省エネルギー化に貢献する長寿命製品の展示会などでの訴求(床材、ポート製品)/省力工法の訴求(Tn-p工法)/グリーンプラ・エコマーク商品の訴求	A
			品質管理の徹底(全工程パトロールの推進)	PRTR ^{※2} 法対象物質の管理/製品素材の安全性審査の実施/全製造工程パトロールによる品質管理/景品表示法遵守の環境整備(規定整備と研修実施)/カタログ・取扱説明書の現地語対応(輸出製品が対象)/注意・警告に関する表示の見直し推進(ポート製品)/廃棄物削減活動の地域社会への訴求/省資源・省エネルギー化に貢献する長寿命製品の展示会などでの訴求(床材、ポート製品)/省力工法の訴求(Tn-p工法)/グリーンプラ・エコマーク商品の訴求(フィルム製品)/当社グループのCSR活動報告の広報/お客様アンケートの活用と業務改善(品質・サービス)/マナー向上研修の実施(大卒新入社員)	
			表示に関する社内規定の見直し	PRTR ^{※2} 法対象物質の管理/製品素材の安全性審査の実施/全製造工程パトロールによる品質管理/景品表示法遵守の環境整備(規定整備と研修実施)/カタログ・取扱説明書の現地語対応(輸出製品が対象)/注意・警告に関する表示の見直し推進(ポート製品)/廃棄物削減活動の地域社会への訴求/省資源・省エネルギー化に貢献する長寿命製品の展示会などでの訴求(床材、ポート製品)/省力工法の訴求(Tn-p工法)/グリーンプラ・エコマーク商品の訴求(フィルム製品)/当社グループのCSR活動報告の広報/お客様アンケートの活用と業務改善(品質・サービス)/マナー向上研修の実施(大卒新入社員)	
			英語、中国語などカタログ記載言語の拡充	PRTR ^{※2} 法対象物質の管理/製品素材の安全性審査の実施/全製造工程パトロールによる品質管理/景品表示法遵守の環境整備(規定整備と研修実施)/カタログ・取扱説明書の現地語対応(輸出製品が対象)/注意・警告に関する表示の見直し推進(ポート製品)/廃棄物削減活動の地域社会への訴求/省資源・省エネルギー化に貢献する長寿命製品の展示会などでの訴求(床材、ポート製品)/省力工法の訴求(Tn-p工法)/グリーンプラ・エコマーク商品の訴求(フィルム製品)/当社グループのCSR活動報告の広報/お客様アンケートの活用と業務改善(品質・サービス)/マナー向上研修の実施(大卒新入社員)	
			ユニバーサルデザインによる注意・警告ラベルの採用推進	PRTR ^{※2} 法対象物質の管理/製品素材の安全性審査の実施/全製造工程パトロールによる品質管理/景品表示法遵守の環境整備(規定整備と研修実施)/カタログ・取扱説明書の現地語対応(輸出製品が対象)/注意・警告に関する表示の見直し推進(ポート製品)/廃棄物削減活動の地域社会への訴求/省資源・省エネルギー化に貢献する長寿命製品の展示会などでの訴求(床材、ポート製品)/省力工法の訴求(Tn-p工法)/グリーンプラ・エコマーク商品の訴求(フィルム製品)/当社グループのCSR活動報告の広報/お客様アンケートの活用と業務改善(品質・サービス)/マナー向上研修の実施(大卒新入社員)	
			持続可能な消費・環境配慮への啓蒙推進	PRTR ^{※2} 法対象物質の管理/製品素材の安全性審査の実施/全製造工程パトロールによる品質管理/景品表示法遵守の環境整備(規定整備と研修実施)/カタログ・取扱説明書の現地語対応(輸出製品が対象)/注意・警告に関する表示の見直し推進(ポート製品)/廃棄物削減活動の地域社会への訴求/省資源・省エネルギー化に貢献する長寿命製品の展示会などでの訴求(床材、ポート製品)/省力工法の訴求(Tn-p工法)/グリーンプラ・エコマーク商品の訴求(フィルム製品)/当社グループのCSR活動報告の広報/お客様アンケートの活用と業務改善(品質・サービス)/マナー向上研修の実施(大卒新入社員)	
			グリーンプラ・エコマーク商品の訴求	PRTR ^{※2} 法対象物質の管理/製品素材の安全性審査の実施/全製造工程パトロールによる品質管理/景品表示法遵守の環境整備(規定整備と研修実施)/カタログ・取扱説明書の現地語対応(輸出製品が対象)/注意・警告に関する表示の見直し推進(ポート製品)/廃棄物削減活動の地域社会への訴求/省資源・省エネルギー化に貢献する長寿命製品の展示会などでの訴求(床材、ポート製品)/省力工法の訴求(Tn-p工法)/グリーンプラ・エコマーク商品の訴求(フィルム製品)/当社グループのCSR活動報告の広報/お客様アンケートの活用と業務改善(品質・サービス)/マナー向上研修の実施(大卒新入社員)	
			バリューチェーンにおけるCSR活動の推進	PRTR ^{※2} 法対象物質の管理/製品素材の安全性審査の実施/全製造工程パトロールによる品質管理/景品表示法遵守の環境整備(規定整備と研修実施)/カタログ・取扱説明書の現地語対応(輸出製品が対象)/注意・警告に関する表示の見直し推進(ポート製品)/廃棄物削減活動の地域社会への訴求/省資源・省エネルギー化に貢献する長寿命製品の展示会などでの訴求(床材、ポート製品)/省力工法の訴求(Tn-p工法)/グリーンプラ・エコマーク商品の訴求(フィルム製品)/当社グループのCSR活動報告の広報/お客様アンケートの活用と業務改善(品質・サービス)/マナー向上研修の実施(大卒新入社員)	
			アンケート調査による苦情対応方法の改善推進	PRTR ^{※2} 法対象物質の管理/製品素材の安全性審査の実施/全製造工程パトロールによる品質管理/景品表示法遵守の環境整備(規定整備と研修実施)/カタログ・取扱説明書の現地語対応(輸出製品が対象)/注意・警告に関する表示の見直し推進(ポート製品)/廃棄物削減活動の地域社会への訴求/省資源・省エネルギー化に貢献する長寿命製品の展示会などでの訴求(床材、ポート製品)/省力工法の訴求(Tn-p工法)/グリーンプラ・エコマーク商品の訴求(フィルム製品)/当社グループのCSR活動報告の広報/お客様アンケートの活用と業務改善(品質・サービス)/マナー向上研修の実施(大卒新入社員)	
			接客マナー向上による顧客サポート体制の強化	PRTR ^{※2} 法対象物質の管理/製品素材の安全性審査の実施/全製造工程パトロールによる品質管理/景品表示法遵守の環境整備(規定整備と研修実施)/カタログ・取扱説明書の現地語対応(輸出製品が対象)/注意・警告に関する表示の見直し推進(ポート製品)/廃棄物削減活動の地域社会への訴求/省資源・省エネルギー化に貢献する長寿命製品の展示会などでの訴求(床材、ポート製品)/省力工法の訴求(Tn-p工法)/グリーンプラ・エコマーク商品の訴求(フィルム製品)/当社グループのCSR活動報告の広報/お客様アンケートの活用と業務改善(品質・サービス)/マナー向上研修の実施(大卒新入社員)	
環境	環境への取り組み	CO ₂ 、水、廃棄物などの環境負荷低減、森林や生物多様性などの環境保全に取り組みます	環境目標達成の推進(CO ₂ 削減、省エネ推進、廃棄物削減など)	全事業場でのCO ₂ 削減と省エネ活動の推進/3R ^{※3} 活動の推進/完全ゼロエミッション(最終処分率0.1%未満)の達成/大気汚染物質の排出抑制/モーターシフトの推進(輸送時)/水の循環利用(冷却水)/太陽光発電(足利工場、滋賀工場)/省力照明への切り替えを促進/断熱資材事業を通じて省エネ化を訴求/発泡製品のノンフロン化促進ならびに温暖化係数が低い発泡剤使用製品の訴求(断熱資材製品)/長寿命製品の開発と訴求活動/リサイクルを考慮した製品開発(ポート、遮水シート製品)/老朽インフラ改修時の省力工法の訴求/植物由来の原材料を使用したフィルム製品の訴求/廃棄物削減活動の地域社会への訴求/生物多様性への取組み(森林保全活動への寄附、鮭の稚魚の放流など)	A
			輸送に伴うエネルギー使用量削減の推進	全事業場でのCO ₂ 削減と省エネ活動の推進/3R ^{※3} 活動の推進/完全ゼロエミッション(最終処分率0.1%未満)の達成/大気汚染物質の排出抑制/モーターシフトの推進(輸送時)/水の循環利用(冷却水)/太陽光発電(足利工場、滋賀工場)/省力照明への切り替えを促進/断熱資材事業を通じて省エネ化を訴求/発泡製品のノンフロン化促進ならびに温暖化係数が低い発泡剤使用製品の訴求(断熱資材製品)/長寿命製品の開発と訴求活動/リサイクルを考慮した製品開発(ポート、遮水シート製品)/老朽インフラ改修時の省力工法の訴求/植物由来の原材料を使用したフィルム製品の訴求/廃棄物削減活動の地域社会への訴求/生物多様性への取組み(森林保全活動への寄附、鮭の稚魚の放流など)	
			地球温暖化係数の低い発泡製法品の訴求	全事業場でのCO ₂ 削減と省エネ活動の推進/3R ^{※3} 活動の推進/完全ゼロエミッション(最終処分率0.1%未満)の達成/大気汚染物質の排出抑制/モーターシフトの推進(輸送時)/水の循環利用(冷却水)/太陽光発電(足利工場、滋賀工場)/省力照明への切り替えを促進/断熱資材事業を通じて省エネ化を訴求/発泡製品のノンフロン化促進ならびに温暖化係数が低い発泡剤使用製品の訴求(断熱資材製品)/長寿命製品の開発と訴求活動/リサイクルを考慮した製品開発(ポート、遮水シート製品)/老朽インフラ改修時の省力工法の訴求/植物由来の原材料を使用したフィルム製品の訴求/廃棄物削減活動の地域社会への訴求/生物多様性への取組み(森林保全活動への寄附、鮭の稚魚の放流など)	
			製品(シリコンウエハー搬送用ケース)のリユース事業の推進	全事業場でのCO ₂ 削減と省エネ活動の推進/3R ^{※3} 活動の推進/完全ゼロエミッション(最終処分率0.1%未満)の達成/大気汚染物質の排出抑制/モーターシフトの推進(輸送時)/水の循環利用(冷却水)/太陽光発電(足利工場、滋賀工場)/省力照明への切り替えを促進/断熱資材事業を通じて省エネ化を訴求/発泡製品のノンフロン化促進ならびに温暖化係数が低い発泡剤使用製品の訴求(断熱資材製品)/長寿命製品の開発と訴求活動/リサイクルを考慮した製品開発(ポート、遮水シート製品)/老朽インフラ改修時の省力工法の訴求/植物由来の原材料を使用したフィルム製品の訴求/廃棄物削減活動の地域社会への訴求/生物多様性への取組み(森林保全活動への寄附、鮭の稚魚の放流など)	
			長寿命製品の訴求	全事業場でのCO ₂ 削減と省エネ活動の推進/3R ^{※3} 活動の推進/完全ゼロエミッション(最終処分率0.1%未満)の達成/大気汚染物質の排出抑制/モーターシフトの推進(輸送時)/水の循環利用(冷却水)/太陽光発電(足利工場、滋賀工場)/省力照明への切り替えを促進/断熱資材事業を通じて省エネ化を訴求/発泡製品のノンフロン化促進ならびに温暖化係数が低い発泡剤使用製品の訴求(断熱資材製品)/長寿命製品の開発と訴求活動/リサイクルを考慮した製品開発(ポート、遮水シート製品)/老朽インフラ改修時の省力工法の訴求/植物由来の原材料を使用したフィルム製品の訴求/廃棄物削減活動の地域社会への訴求/生物多様性への取組み(森林保全活動への寄附、鮭の稚魚の放流など)	
			バリューチェーンへの環境配慮活動の啓蒙	全事業場でのCO ₂ 削減と省エネ活動の推進/3R ^{※3} 活動の推進/完全ゼロエミッション(最終処分率0.1%未満)の達成/大気汚染物質の排出抑制/モーターシフトの推進(輸送時)/水の循環利用(冷却水)/太陽光発電(足利工場、滋賀工場)/省力照明への切り替えを促進/断熱資材事業を通じて省エネ化を訴求/発泡製品のノンフロン化促進ならびに温暖化係数が低い発泡剤使用製品の訴求(断熱資材製品)/長寿命製品の開発と訴求活動/リサイクルを考慮した製品開発(ポート、遮水シート製品)/老朽インフラ改修時の省力工法の訴求/植物由来の原材料を使用したフィルム製品の訴求/廃棄物削減活動の地域社会への訴求/生物多様性への取組み(森林保全活動への寄附、鮭の稚魚の放流など)	
			サプライチェーンへの環境配慮活動の啓蒙	全事業場でのCO ₂ 削減と省エネ活動の推進/3R ^{※3} 活動の推進/完全ゼロエミッション(最終処分率0.1%未満)の達成/大気汚染物質の排出抑制/モーターシフトの推進(輸送時)/水の循環利用(冷却水)/太陽光発電(足利工場、滋賀工場)/省力照明への切り替えを促進/断熱資材事業を通じて省エネ化を訴求/発泡製品のノンフロン化促進ならびに温暖化係数が低い発泡剤使用製品の訴求(断熱資材製品)/長寿命製品の開発と訴求活動/リサイクルを考慮した製品開発(ポート、遮水シート製品)/老朽インフラ改修時の省力工法の訴求/植物由来の原材料を使用したフィルム製品の訴求/廃棄物削減活動の地域社会への訴求/生物多様性への取組み(森林保全活動への寄附、鮭の稚魚の放流など)	
			森林保全活動への参加	全事業場でのCO ₂ 削減と省エネ活動の推進/3R ^{※3} 活動の推進/完全ゼロエミッション(最終処分率0.1%未満)の達成/大気汚染物質の排出抑制/モーターシフトの推進(輸送時)/水の循環利用(冷却水)/太陽光発電(足利工場、滋賀工場)/省力照明への切り替えを促進/断熱資材事業を通じて省エネ化を訴求/発泡製品のノンフロン化促進ならびに温暖化係数が低い発泡剤使用製品の訴求(断熱資材製品)/長寿命製品の開発と訴求活動/リサイクルを考慮した製品開発(ポート、遮水シート製品)/老朽インフラ改修時の省力工法の訴求/植物由来の原材料を使用したフィルム製品の訴求/廃棄物削減活動の地域社会への訴求/生物多様性への取組み(森林保全活動への寄附、鮭の稚魚の放流など)	
公正な事業慣行	取引先との協働	取引先を含めたサプライチェーン全体における取り組みや、公正な事業活動を推進します	「アキレス行動指針」の遵守推進	「アキレス調達基本方針」の訴求/主要取引先様への「調達アンケート」の実施/従業員の法令遵守意識の啓蒙(コンプライアンス研修、内部通報制度の訴求)/下請法遵守の訴求/内部監査の適宜実施	A
			「アキレス調達基本方針」の徹底	「アキレス調達基本方針」の訴求/主要取引先様への「調達アンケート」の実施/従業員の法令遵守意識の啓蒙(コンプライアンス研修、内部通報制度の訴求)/下請法遵守の訴求/内部監査の適宜実施	
			内部通報制度(「ホットライン」)の周知	「アキレス調達基本方針」の訴求/主要取引先様への「調達アンケート」の実施/従業員の法令遵守意識の啓蒙(コンプライアンス研修、内部通報制度の訴求)/下請法遵守の訴求/内部監査の適宜実施	
			コンプライアンス研修の実施	「アキレス調達基本方針」の訴求/主要取引先様への「調達アンケート」の実施/従業員の法令遵守意識の啓蒙(コンプライアンス研修、内部通報制度の訴求)/下請法遵守の訴求/内部監査の適宜実施	

※1 自己評価の基準A=良好、B=良、C=不足

※2 Pollutant Release and Transfer Register [環境汚染物質排出・移動登録]の略語です

※3 廃棄物の発生抑制(リデュース)、部品などの再利用(リユース)、使用済み製品などとしての再利用(リサイクル)の略語です

※4 コーポレートガバナンス・コードの略語。東京証券取引所の有価証券上場規程の別添として定められ、2015年6月1日から上場企業に適用されています

ISO-26000 7つの中核主題	CSR 重要テーマ	活動方針	2016年度の活動目標	2016年度の活動実績	自己 評価 ^{※1}	
人権と労働慣行	人権や多様性の尊重とグローバル人材の育成	人権に配慮し多様な人材を活用しグローバル人材を育成します	「アキレス行動指針」の遵守推進	「アキレス行動指針」遵守への誓約/「アキレス ソーシャルメディア利用に関する行動指針」の遵守推進	A	
			「アキレス ソーシャルメディア利用に関する行動指針」の遵守推進	「アキレス調達基本方針」の徹底(サプライチェーンに対する啓蒙)		
			「アキレス調達基本方針」の徹底(サプライチェーンに対する啓蒙)	グローバル人材育成プログラムの推進		
	安全で働きやすい健康的な職場環境	安全で健康に働くことのできる職場づくりに取り組みます	安全で健康に働くことのできる職場づくりに取り組みます	グローバル人材育成プログラムの推進	「ホットライン」(内部通報窓口)の周知	A
				「ホットライン」(内部通報窓口)の周知	コンプライアンス研修の実施	
				コンプライアンス研修の実施	ストレスチェックの実施を含む労働安全衛生法の遵守	
コミュニティ 参画・発展	地域との関わりと社会貢献活動	地域社会とのコミュニケーションや社会貢献活動を重んじ、地域の発展に貢献します	職場の安全パトロールと改善活動の推進	ストレスチェックの実施(国内全事業場)/定期的に安全衛生委員会を開催し職場の安全パトロールを実施/職場環境の改善実施/5S活動の推進(製造部門)/チーム峯岸との取り組み(ヨガ教室)/産業医との相談窓口の設置	A	
			5S活動による職場環境の美化推進	健康づくりに役立つプログラムの提供		
			健康づくりに役立つプログラムの提供	事業所近隣地域の企業の活用		
			事業所近隣地域の企業の活用	地域社会の催事への参画		
			地域社会の催事への参画	事業所近隣の清掃活動の実施		
			事業所近隣の清掃活動の実施	地域の防災活動への参加		
地域の防災活動への参加	教育機関からの工場見学受入					
組織統治	ガバナンス・リスクマネジメント	経営の透明性を高める制度の強化、リスク対策に取り組みます	教育機関からの工場見学受入	「瞬足陸上教室」の開催	A	
			「瞬足陸上教室」の開催	「足育(そくいく)」活動出前講座の推進(東京都周辺)/「足育(そくいく)」足型測定会(全国)		
			「足育(そくいく)」活動出前講座の推進	CSRマネジメントの推進(ISO-26000に準拠)		
			CSRマネジメントの推進(ISO-26000に準拠)	コンプライアンスの推進		
コンプライアンスの推進	ステークホルダーのニーズの把握と反映	人事制度の見直し(昇進機会の見直し)	女性活躍を含むダイバーシティへの取り組み推進	「アキレスCSR重要テーマ」への取り組み推進/ガバナンス強化の推進(CGコード ^{※4} 対応、内部統制環境の拡充、コンプライアンス研修の推進など)/ステークホルダーエンゲージメント/人事制度を刷新/新卒採用女性の比率UP		

数字で見るアキレスグループ

企画開発

研究開発費

15.1億円

- 新商品の上市に向けた基礎・応用の研究開発
- 性能向上、コストダウンに向けた新技術の開発
- 環境・省エネ対応化技術の開発
- 新事業に結びつく新テーマの市場・技術・特許調査

調達・購買

調達部材総点数

約9,600点*

- 原材料の品質管理
- 品質向上に向けたお取引先様との協働（取引先企業数約1,000社）
- CSR活動の拡大

※国内グループ製造部門における製品製造に関連する調達部材の2016年度実績です

生産

世界の製造拠点数

16拠点

- 地球温暖化対策を含む環境配慮につながる活動推進
- 資源の有効活用
- 5S活動の推進

品質管理

国内製造拠点 ISO-9001 取得数

12拠点

- 国内製造拠点すべてにおいてISO-9001を取得
- 品質保証の維持・向上

お客様とのコミュニケーション

お客様相談室への年間お問い合わせ件数

5,487件

- ご意見 721件
- その他お問い合わせ 4,766件

販売

「瞬足」の年間売上数 (2016年度実績)

493万足

- ご愛顧いただき累計販売足数6,200万足を達成

物流

輸送のモーダルシフト*率

17.7%

- モーダルシフトの拡大と輸送効率化を推進

※貨物輸送をトラックから鉄道や船に変えること。一度に大量の貨物を輸送することができ、CO₂排出量を抑える効果が期待されています

廃棄・リサイクル

国内グループの廃棄物リサイクル率

99.98%

- 3R*活動を通じて環境負荷低減を推進

※廃棄物の発生抑制（リデュース）、部品などの再利用（リユース）、使用済み製品などとしての再利用（リサイクル）の略語

アキレスグループの2016年度年間実績

各事業場での取り組み

アキレスグループの従業員は「CSR重要テーマ」に取り組んでいます。

「アキレスのCSR重要テーマ」

- 1 製品・サービスを通じた真の満足と感動の提供
- 2 環境への取り組み
- 3 取引先との協働
- 4 人権や多様性の尊重とグローバル人材の育成
- 5 安全で働きやすい健康的な職場環境
- 6 地域との関わりと社会貢献活動
- 7 ガバナンス・リスクマネジメント

アキレス 本社
シューズ事業部
カジュアルグループ MD課
服部 夏紀

1 製品・サービスを通じた真の満足と感動の提供

アキレス 北海道営業所
プラスチック販売課
塚原 くるみ

3 取引先との協働

アキレス 本社
断熱資材事業部
断熱資材販売部 戸建特販課
五十嵐 慧

2 環境への取り組み

アキレス 九州営業所
プラスチック販売課
西野 直子

5 安全で働きやすい健康的な職場環境

アキレス 関西支社
支社総務部 支社総務課
島田 実希子

5 安全で働きやすい健康的な職場環境

アキレス 名古屋駐在
ウレタン事業部
楊 艶華

4 人権や多様性の尊重とグローバル人材の育成

アキレス 足利第一工場
シューズ工場
生産技術開発課
矢野 周明

製品・サービスを通じた
真の満足と感動の提供

アキレスコアテック
管理課
杉村 朋子

7
ガバナンス・リスクマネジメント

関東アキレスエアロン
加工課
木部 光二

製品・サービスを通じた
真の満足と感動の提供

三進興産
上尾工場
吉倉 勝美

3
取引先との協働

ACHILLES USA, INC.
HEADQUARTERS
Plant manager (工場長)
Curt Greatreaks

4
Understanding and Respect of
Diversity and
Human rights.

アキレス 足利第二工場
壁材工場 製造課
須田 英樹

5
安全で働きやすい
健康的な職場環境

アキレスコアテック
名古屋営業所
藤本 明子

5
安全で働きやすい
健康的な職場環境

大阪アキレスエアロン
寝装リビング課
小原 弘誠

製品・サービスを通じた
真の満足と感動の提供

アキレス商事
保険部 東京保険課
三田 智之

7
ガバナンス・リスクマネジメント

ACHILLES USA, INC.
DETROIT Sales Office
Sales manager
藤本 昌也

4
Understanding and Respect of
Diversity and
Human rights.

アキレス 滋賀第一工場
滋賀プラスチック工場
管理課
三橋 明

製品・サービスを通じた
真の満足と感動の提供

アキレス大阪ビニスター
営業課
山中 宏二

製品・サービスを通じた
真の満足と感動の提供

大阪アキレスエアロン
滋賀営業所 加工課
山田 篤義

製品・サービスを通じた
真の満足と感動の提供

アキレス商事
保険部 足利保険課
小椋 ゆう子

製品・サービスを通じた
真の満足と感動の提供

ACHILLES HONG KONG
CO.,LIMITED
百貨店靴売場常駐
羅 妙玲

製品・サービスを通じた
真の満足と感動の提供

アキレス 滋賀第二工場
滋賀ウレタン工場
ラミネート製造課
大道 祐輔

2
環境への取り組み

東北アキレス
管理課
大河原 信幸

3
取引先との協働

九州アキレスエアロン
山口 裕司

製品・サービスを通じた
真の満足と感動の提供

アキレス島根
縫製ライン
若槻 幸子

製品・サービスを通じた
真の満足と感動の提供

榮新科技有限公司
莫 海健

3
取引先との協働

アキレス 美唄工場
製造課
奥田 雪美

製品・サービスを通じた
真の満足と感動の提供

北海道アキレスエアロン
経理担当
横山 孝二

6
地域との関わりと社会貢献活動

三進興産 東京営業所
桂嶋 佑果

製品・サービスを通じた
真の満足と感動の提供

アキレスウエルダー
生産技術課
白石 貴裕

製品・サービスを通じた
真の満足と感動の提供

阿基里斯(上海)国際貿易
有限公司
車輛資材販売部
張 平玉

4
人権や多様性の尊重と
グローバル人材の育成

アキレス 九州工場
製造課
高山 浩

5
安全で働きやすい
健康的な職場環境

山形アキレスエアロン
製造担当
高橋 満

6
地域との関わりと社会貢献活動

三進興産
大阪営業所
福間 裕二

製品・サービスを通じた
真の満足と感動の提供

アキレスマリン 製造課
須永 勝

5
安全で働きやすい
健康的な職場環境

阿基里斯先進科技股份
有限公司 品質技術部
陳 淑君

製品・サービスを通じた
真の満足と感動の提供

CSR対談

アキレスがお客様と 社会に対してできること

アキレスが今後も社会に貢献を続けていくためのあるべきCSRの姿について、
当社代表取締役社長の伊藤 守と、お取引先である
三菱商事株式会社 常務執行役員
化学品グループCEOの萩原 剛氏が対談しました。



アキレス株式会社
代表取締役社長
伊藤 守

三菱商事株式会社
常務執行役員 化学品グループCEO
萩原 剛

企業理念の実践こそが社会貢献

萩原 アキレスは70年の長きにわたり成長を続けてきました。その強みはどこにあるのでしょうか。

伊藤 我々のルーツは、栃木県・足利の殿利織物という繊維会社で、その後国華工業の足利工場としてゴム引布事業をはじめました。太平洋戦争中は軍用品を製造し、戦後、民生用途へと事業を転換するわけですが、その根底にあったのは、「生活者の方々に身近な製品を市場に問うてみたい」という思いです。以来私たちは、その時代時代暮らしを豊かにするために何ができるかを考え、お客様の期待に応える新しい製品を生み出すことにこだわってきました。その積み重ねが事業継続の原動力になったのではないかと思います。

萩原 創業以来一貫してきた姿勢は、「社会との共生」＝「顧客起点」というアキレスの企業理念にもつながっているわけですね。

伊藤 はい。アキレスはこの地球で、日本の社会で生き、生かされています。社会的な背景やニーズをとらえたモノづくりが重要であり、その実現のためには顧客視点、お客様を第一に考える発想が不可欠です。企業理念を実践することが社会貢献であり、経営戦略の根元にCSRが据えられているということです。

萩原 三菱商事にも三綱領という社があります。そのひとつ「所期奉公」は、事業を通じ物心共に豊かな社会の実現、地球環境の維持に貢献することの大切さを説いています。社会こそが事業活動の基盤であり、社会と共に事業が成長していく。アキレスの考え方とまさに通じていて大いに共感するところです。

伊藤 4年前から、当社の新製品、新技術を紹介する「Achilles THE NEXT」を開催しています。この「THE」に思いを込めています。これはTechnology (技術)、Human (人間)、Environment (環境) の頭文字を取ったものです。人と環境に対して、私たちの技術を活かして問題を解決する、社会的な責

任を履行していくという想いを込めています。

萩原 長期にわたって成長を実現している企業とは、経済価値に加えて、社会価値、環境価値を同時に実現する企業なのだと思います。公明正大に事業活動をグローバルに展開し、持続可能な環境を維持しながら社会のより豊かな発展に寄与していく。つまり持続可能な社会で豊かさを実現することと、個々の企業の成長は車の両輪なのです。

伊藤 環境を改善し、社会をより良いものとして、適切な対価をいただく。いずれも企業価値を高めるために不可欠ということですね。

アキレスが解決する7つの課題

萩原 アキレスはCSRの重要テーマとして7項目（P6参照）を掲げていますね。

伊藤 企業が社会的な責任を果たすためには、具体的な落とし込みが必要です。この7項目は、アキレスの事業に関連があり、かつ事業活動を通じて解決を図ることのできる課題です。ここに注力していただくことが我々の使命であり、CSRであると考えています。

例えば、最初に掲げた「製品・サービスを通じた真の満足と感動の提供」。「瞬足」は年間500万足を販売しています。「瞬足」で1等賞が獲れた」という感動があるからこそ、それだけ多くのご支持をいただけているのだと思います。

あるいは、衝撃を吸収すると同時に反発弾性で軽快な足運びを実現した大人用の靴「MEDIFOAM」は市民ランナーの「走り」をサポートしています。また、ウレタンソールの「アキレス・ソルボ」を履いた高齢者が歩くことの楽しみを見つけ「今年の桜を見ることができた」と感動していただく。製品を通じて多くの笑顔を見ることが、私たちの果たすべき責任だと思えます。

また、「環境への取り組み」では、業界最高水準の断熱性能を持つ素材を最近発表しました。CO₂を多く排出している地域に



積極的に進出していくことで、地球環境への貢献を果たしていきます。

萩原 新しい素材を使いやすい価格、性能で提供していく活動も、CSRに結びついているのですね。

伊藤 それから東日本大震災を契機に「安全で働きやすい健康的な職場環境」にしたいと、働く従業員の安全とBCPを目的に、北新宿の本社に移転しました。全国の拠点においても耐震性の確保に取り組んでいます。

当社の自慢の1つは、離職率が極めて低いこと。離職率は約1%で、安心して働くことができる会社であると評価されていると思っています。

萩原 BtoCにも軸足を置く会社として、働く方々、特に女性の感性を大切にされていることは、社会に対しても、事業に対しても価値を高めていくことにつながりますね。

社会やお客様のニーズに一つひとつ耳を傾け、応えていく

萩原 昨年は英国のEU離脱や米国のトランプ大統領就任など、従前の流れとは異なることが起きています。国内では2020年に東京五輪を控え、首都圏を中心に需要の増加が見込まれる一方で、少子高齢化による活力の低下など長期的な展望は楽観視できない状況が続きます。今後もアキレスが持続的に成長を続けるために必要なことは何だと思われそうです。

伊藤 社会の変化の流れとは海のようなものと思っています。

表面にはさざ波が立ち、時にうねりになりますが、海底の潮流が突然変わることはありません。もちろん、事業に多少の影響はあるでしょう。しかし、幸せでよりよい暮らしや安定した基盤を志向する、お客様や社会のニーズの本質は変わりません。その一つひとつに細やかに耳を傾ける、そうすることでしか、私たちの事業の成長はないと考えています。

一方で、環境に適應するだけでなく、新しいものを創造する、挑戦の精神も重要です。全社員がこの会社、この社会で生きていく確信を持ち、挑戦する力を最大限に引き出すのが私の仕事です。

今、小学生の6人に1人は貧困家庭で、靴が満足に買えない子どもたちがいるのも事実です。子どもたちの笑顔のために私たちに何ができるのか。それは、安価な新素材の開発であったり、徹底したコストの見直しであったり、あるいは「瞬足陸上教室」で「走る」ことの楽しさを知ってもらう活動や靴の正しい履き方で健康な「足」になってもらう「足育（そくいく）」活動などへの取り組みです。アキレスにできることはまだまだたくさんあります。

萩原 その企業だからこそ見えてくる社会の課題、それを一つひとつ改善することが持続的な成長につながっていくのですね。

アキレスの持つ資源、技術、科学に創造の力を加えることで、付加価値を創出し、物心豊かな社会の実現にこれからも寄与していただければと思います。三菱商事もアキレスとともに、事業活動を通じて経済価値、環境価値、社会価値の3つの価値の実現を果たしていきたいと考えていますので、今後ともご協力をお願いいたします。

アキレスの社会貢献「足育(そくいく)」活動

子どもの足を守り、足を育てる「足育(そくいく)」

アキレスは、靴の製造メーカーの責任として、子どもたちの足を守り、その健やかな成長を支援する「足育(そくいく)」を2013年に提唱し、その普及に努めています。

アキレスの足育宣言

アキレスは、モータリゼーションの発達、生活環境の変化などにより子どもの足の成長が「足本来のもの」ではなくなりつつあるのではないかと考えています。アキレスは、発達過程にある子どもの「足を守る」社会的責任があると考え、「足育(そくいく)」の普及・啓蒙をめざし、子どもたちの足を健やかに育み、「楽しく歩く・走る」ことの普及に取り組んでいます。

アキレスは、2013年5月、「瞬足」の発売10周年の節目を機に、子どもたちの足の健康と成長を促す「足育(そくいく)」を宣言しました。

以来、「足育(そくいく)」視点での商品開発を進めているほか、子どもと保護者を対象に、足に合った靴と足の健康を保つための靴選びをサポートする足育活動を展開しています。

Part 1

アキレスが考える「足育(そくいく)」

アキレスでは、子どもの健やかな成長のためにヨチヨチ歩き頃の「足」づくりが何より重要だと考えています。成長過程の子どもの足には極力負担をかけず「はだしに近い感覚で歩くこと」、そして「人間が持つ足本来の機能を取り戻し、足の正しい育成を促すこと」、これこそが足を育てる＝「足育(そくいく)」というアキレス独自の理念です。「瞬足足育」シリーズをはじめ「瞬足」シリーズはBABYからJUNIORまですべての靴にその理念を生かし、足を育て、楽しく歩く・走ることの普及に取り組んでいます。

子どもの年齢による足の成長の変化

BABY 1～3歳



ハイハイ・
ヨチヨチ歩き

足の骨はまだやわらかな状態

CHILD 3～7歳



基本的な
歩行動作の完成

足の骨がしっかりと
なる過程

JUNIOR 7～10歳



基本的な
走る運動が完成

足の骨の大部分が完成
して行く段階



Part 2

順天堂大学と連携

産学協同で子どもの足を育てる製品開発

深刻な問題となっている子どもの運動能力の低下に対して危機感を持ったアキレスでは、2009年4月より順天堂大学との産学協同研究プロジェクトをスタート。4年の歳月を経て、「正しい歩行が自然と身につく靴」の開発に取り組み、「子どもの足を育てる=足育コンセプト」を生かした「瞬足足育」シリーズが誕生しました。

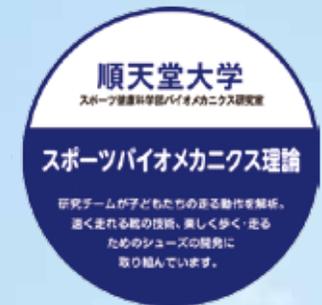
「瞬足足育」シリーズ

正しい歩行が自然と身につく

「足なり歩行」でトラブルを起こしにくい健康な足に!

開発した三つの足育機能→足なり歩行をサポート

- 1 ヒールロックシステムと
アナトミーインソール
- 2 プレート構造
ソール
- 3 屈曲溝でしなやかに
曲がるアウトソール



問題視される足のトラブル

現代の子どもが起こす足のトラブルには、外反母趾、浮き指、扁平足といった現象が報告されています。これらは「環境の変化により歩行の機会が減ったこと」に加え、「正しい靴を履いていない」といったことが原因で起こります。

こうしたトラブルを放っておくと、足だけにとどまらず、子どもの体全体に悪影響を及ぼしてしまいます。

足に合わない靴を履くことによる

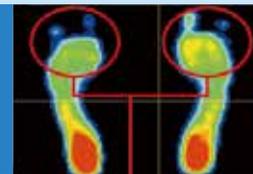
外反母趾



悪化すると親指の付け根が外側に飛び出し、激しく痛みます。ヘルニアや顎関節症、頭痛、腰痛、ひざの痛みなどの症状が起こることも。

足に合わない靴を履くことによる

浮き指



まっすぐ走れない、すぐに転倒するなどの問題が起こりやすくなります。姿勢などに影響する場合も。

環境の変化・歩く機会の減少による

扁平足



土ふまずのアーチ部分が正しく形成されないため、バランスがとりにくく転倒しやすくなります。また痛みや疲れが多く出る場合も。

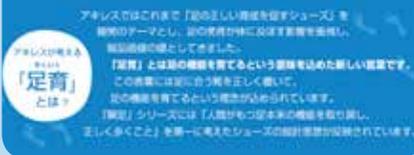
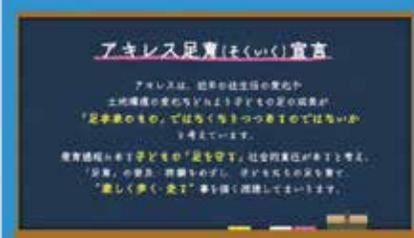
Part 3

「足育(そくいく)」の普及活動

アキレスでは、「瞬足足育」をはじめとしたシューズ製品の開発のほかにもさまざまな普及活動を展開しています。「足育(そくいく)」特設ウェブサイトの開設、啓蒙活動のためのリーフレット制作。そして、各種関連イベントの実施などをその活動の骨子と考えていますが、中でもお客様との接点として重要な活動が、全国で行われているアキレス「足型測定会」と、アキレス「足育(そくいく)相談室」です。

特設ウェブサイトの開設

足育(そくいく)宣言



<http://www.syunsoku.jp/other/sokuiku/>

当社ウェブサイトでは、子どもたちの足を育て、楽しく歩く・走ることをつよく推進することを誓う「足育(そくいく)宣言」の紹介とあわせて、アキレスの「足育(そくいく)」の考え方や正しい靴の履き方、正しい歩き方を伝えています。

アキレス「足型測定会」



京亜百貨店新宿店

「足育(そくいく)宣言」をした2013年から、共感を頂いた全国の百貨店、総合スーパーなどのお得意様の売場にて、足型測定会を55回開催し、幼児子ども専門シューフィッターが約7千人の子どもたちの足型を測定し、一人ひとりに丁寧にカウンセリングを行ってまいりました。

足の測定だけでなく、足の特徴や靴の正しいサイズの見立て方、履き方、商品購入のアドバイスなどを行い、好評を得ています。昨年は香港の百貨店でも実施し多くの方々にご興味を持って頂き、足型測定会は「足育(そくいく)」活動の浸透・啓蒙の拡大に努めています。

アキレス「足育(そくいく)相談室」

「足型測定&カウンセリング」サービス

アキレスは「足育(そくいく)相談室」をお客様との接点として重要な活動に位置づけています。上級シューフィッター(足と靴と健康協議会認定)を含めた4名のシューフィッターが在籍するお客様相談室との連携を図り、「正しい靴の選び方、サイズの測り方、正しい靴の履き方」などを中心に、お客様がお子様の「足と靴」についてお気軽に相談(電話&来社/完全予約制)していただける、そんな場所が「足育(そくいく)相談室」です。

みなさまのご利用をお待ちしております。

「出前講座」プログラム

首都圏の小学校やコミュニティセンターを中心に、「足育(そくいく)」や足の健康に関する出前講座を実施しています。

2016年度の出前講座の実績数は、45回でした。

出前講座開催のご要望は、「足型測定&カウンセリング」サービスと同じく、以下のURLに設けている「オンラインフォームでのお問い合わせ」、もしくはフリーコール 0120-89-4192「足育(そくいく)相談室」で受け付けています。

https://www.achilles-shoes.com/sokuiku_sodan/info/

 P37 特集2データ編「足育(そくいく)」活動 出前講座 実績一覧



本社(東京都新宿区)



朝霞市立朝霞第六小学校(埼玉県朝霞市)

「出前講座」プログラム参加者の声



靴選びの大切さは知っていましたが、靴の正しい履き方があるとは知りませんでした。まだまだ成長途中の子どもの足をもう一度見直したいと思います。

子どもの靴選びに悩んだりすることがあったので、参考になりました。今後のサイズ選び等に今回教えていただいたことを活用してみたいと思います。質問タイムもなるほどということが聞けました。ありがとうございました。



ぼくは、学校保健委員会の足育のはなしで、くつのはき方や、くつのえらび方をまなびました。とくに、くつをはくときに、くつのかかとをトントンすることが大事ということにはビックリしました。

足育についての講話で、足のバランスや、足に合わない靴を履いて歩くと、足だけでなく体全体に害があると聞いて、足は自分が思っているよりも大切なものだと分かりました。普段何げなく履いている靴も、もしかしたら自分に合っていないかも知れないので、これからは気をつけて選んでいきたいです。



足育について聞いてみると、自分の気にしていないところで、足がどのくらい大切なのかを教えてくださいました。これからは、足を大切に、自分に合った靴でしっかりと歩いて、ケガなどしないようにしていこうと思いました。

もっとウォーキングを楽しみたいので、本日得た知識を参考にしたいと思います。



今後の展開について

アキレスだからこそできる「足育(そくいく)」を



シューズ事業部
営業本部 副本部長

津端 裕
ゆたか

皆 様からたいへんご愛顧を頂いている当社ブランド「瞬足」も2013年度に販売10周年を迎えました。これを機に、「足育(そくいく)宣言」を行い、「瞬足足育(そくいく)」シリーズの開発をスタートさせ、様々な「足育(そくいく)」活動の啓蒙を行ってまいりました。改めてわかったことは、当社の子ども靴が子どもの足の成長に合わせたサイズ別設計であるのに対して、そうでない製品も存在しているということでした。アキレスの設計の特徴は、親指、小指の「側角度」や「かかと幅」、「ヒール差」などをサイズ別に設計し、木型を作成している点にあります。

今後も、当社は先人達が愚直に行ってきた「履く方の思い」に応える設計思想を伝承し続け、子供たち自身が「足の健康」、「靴選び」、「履き方」の大切さを実感してもらえるよう、製品やサービスの提供を続けることが、アキレスの使命であると考えています。



環境のために

地域および地球規模の環境保全是、シューズ、ゴム、プラスチック製品といった化学原材料による製品の製造を中心に事業展開するアキレスにとって、極めて重要な使命です。当社は事業活動が環境と深く関わっていることを認識し、環境負荷低減に努め持続可能な社会の発展に貢献します。

アキレスグループ環境方針

アキレスグループは、「社会との共生」＝「顧客起点」の企業理念のもと、お客様の真の満足と感動を戴ける製品の創造とサービスの提供を続けることを基本に、シューズ、ゴム、プラスチック製品の製造、販売を主体に事業活動を推進しています。

環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の存在と活動の必須の要件として、環境負荷の低減に主体的に活動するとともに、新たな価値を創り続けることで、豊かで快適な社会づくりに貢献し、高い信頼を得る企業を目指します。

- 1 事業活動による環境への影響を的確に把握し、環境目的・目標を定め、その実現を図ります。
- 2 環境監査等により定期的に環境管理システムを見直し、継続的改善を図るとともに、環境汚染の予防を徹底します。
- 3 環境に関係する法令・条例・協定および会社方針・規則等を遵守します。
- 4 事業活動を通じて、環境配慮型の商品開発、地球温暖化防止と省エネルギー、3R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進を行い、健全な環境の維持・向上に努めます。
- 5 事業活動が環境に与える影響を全員が認識し、適切な行動が取れるよう教育・社内広報活動に努め、環境保全への意識向上を図ります。

環境マネジメントシステム

ISO-14001 への取り組み

地球環境保全のため、そしてアキレスグループの体質強化のため、環境マネジメントシステムISO-14001をツールとして活用し、その中で環境方針、環境目的・目標を定めて、環境負荷低減につながる生産工程および製品づくりを推進し、継続的に環境改善活動に取り組んでいます。2016年度の外部認証機関の審査では、「改善の機会」7件と軽微な指摘があったものの、システムは維持されているとの評価でした。指摘事項については水平展開を図り、環境管理活動に反映させてレベルアップを進めました。

📍 P38 ISO-14001 : 2004認証取得事業場JUSE-EG-661 11拠点

2016年度活動結果概要・2017年度以降目標

環境目的	目標		2016年度実績	評価	2017年度以降目標	掲載ページ
	管理項目	値				
地球温暖化防止と省エネルギー	温室効果ガス (CO ₂) 排出量	2010年度比、6%削減	10.2%削減 ※2010年度排出係数採用	○	2010年度比、7%削減 (2020年度までに 2010年度比10%削減)	P.18
	エネルギー原単位	前年度比、1%削減	1.4%増加	×	前年度比、1%削減	
3R活動による完全ゼロエミッション	廃棄物排出量 ※3R活動推進を基本とする	2010年度比、12%削減	19.8%増加 ※生産の増加が主要因	×	2010年度比、14%削減 (2020年度までに 2010年度比20%削減)	P.19
	廃棄物の最終処分率	2020年度までに、0.1%未滿を達成	0.02%	○	2020年度までに、0.1%未滿を達成	
環境負荷物質の大気汚染防止	環境負荷物質排出量	2010年度比、18%削減	11.7%削減	×	2010年度比、21%削減 (2020年度までに 2010年度比30%削減)	P.19
環境配慮 (廃棄物削減、省エネなど)と環境管理の改善と環境配慮型の商品開発	環境配慮率 [※] ※(エネルギー使用料+廃棄物処理費)÷生産金額×100	前年実績以下	対前年比2.3%増加	×	前年実績以下	P.18 P.19
	環境リスクの特定と対策立案	社内目標による	環境負荷低減につながる設備の導入・改造などを実施	○	老朽化対策・工場再編による環境リスクと環境負荷低減	
	環境配慮型製品の上市・販売	社内目標による	生分解性フィルム、地球温暖化係数の低い発泡剤を使用した吹きつけ硬質ウレタンフォーム等環境配慮型製品の販売目標、上市を達成	○	環境負荷を考慮した商品開発・研究開発の推進・上市	P.30

📍 マークの詳細データについては、P38-39のデータ編に掲載しています

環境事故などに対する是正処置

2016年度は当社滋賀第一工場において、小規模な油膜の流出事故による1件の外部苦情があり、住民および行政への対応を行いました。また、足利地区においても、小規模な油もれ事故が構内で発生しましたが、外部に影響を与えることなく対処しました。その後の原因追及・恒久対策において設備面、管理面の両面において改善を行っております。また、2016年度の各事業場の水質、大気および騒音の実績値は、全て環境関連法規の基準値内であり問題はありませんでした。

意識啓蒙活動

環境保全活動は、従業員一人ひとりの意識と行動がなければ実施できません。

アキレスグループでは、環境意識向上のため、製造部門従業員全員に当社の環境方針などを記した「環境カード」を配布し、環境保全活動の重要性を周知しています。

また、新入社員研修、階層別研修などの実施や、専門知識資格取得にも積極的に取り組んでいます。

環境負荷の全体像

アキレスグループでは、事業活動に伴う物質・エネルギーのフローを定量的に把握し、会社の持続的発展に向けて、事業活動での環境負荷の低減、資源の有効活用に努めています。下記に、アキレスグループ製造工場の環境負荷の全体像を示します。

マテリアルバランス

インプット

原材料	115,532トン
エネルギー	32,726KL (原油換算) 電気、蒸気、都市ガス、A重油等
取扱量 (PRTR法対象物質)	17,996トン
水資源	3,865,598トン 地下水、工業用水、上水道等

アキレスグループ製造工場

アウトプット

製品	シューズ、ビニルフィルム、レザー、合成皮革、ラミネート製品、ゴム引布、壁紙、床材、断熱資材、発泡ポリスチレン製品、軟質ポリウレタンフォーム製品、静電気対策品、RIM製品、その他
大気への排出	PRTR法対象物質 555トン CO ₂ 46,255トン / SO _x (ボイラー) - / NO _x (ボイラー) 9.2トン
水域への排出	総排水量 3,672,318トン COD 15.6トン / 全窒素 12.4トン / 全リン 0.5トン
産業廃棄物	廃棄物リサイクル 7,772トン 廃棄物埋め立て 1.5トン

【集計対象範囲】

アキレス(株)足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美唄工場、九州工場 / ACHILLES USA, INC. / 三進興産(株)

生物多様性への取り組み

生物多様性についての基本的な考え方

アキレスグループでは、人間社会が生態系から恩恵を受ける一方で、大きな負荷を掛けていることを認識し、生物多様性の保全に貢献する取り組みを推進しています。

日光杉並木オーナー制度

日光杉並木街道は、およそ370年前に植えられた杉の巨木が日光街道・例幣使街道・西会津街道の3つの街道にまたがる壮大な杉の並木道です。三つの街道のうちの一つである例幣使街道が当社足利工場のある足利市を通っていることもあり、近年の周辺環境の悪化から杉並木を保護するための「日光杉並木オーナー制度」に賛同し、保全に協力しています。



日光杉並木

琵琶湖森林づくり基金への寄附

当社が製造拠点を置く滋賀県には、重要な水源である琵琶湖があります。また、琵琶湖をとりまく森林は琵琶湖や淀川流域の重要な水源林であると同時に多様な生物の生息域でもあります。

滋賀県では、この重要な環境を保全すべく森林づくり事業を推進しており、当社はこの活動を支援しています。



琵琶湖周辺森林での間伐イメージ (画像提供: 滋賀県)

サケの稚魚一斉放流会へ参加



受精卵



稚魚



放流作業(渡良瀬川)

当社は、2月19日、「サケの稚魚一斉放流会」(国土交通省渡良瀬川河川事務所主催)に参加しました。

2016年12月に配布された受精卵を足利第一工場内でふ化させ、育てた稚魚約50匹を渡良瀬川に放流しました。

渡良瀬川は多様な動植物が生息する重要な水源です。当社は地元で操業する企業として、渡良瀬遊水地へ繋がる水系への排水への配慮は当然のことながら環境保全活動にも参加しています。

写真提供: わたらせ 川のふれあい館「せせら」

水資源の保全

当社では、毎月排水の自主測定を実施し、使用後の排水を環境影響のない状態で河川へ排出しています。なお、当社足利第二工場および滋賀第一工場、昆山阿基里斯人造皮有限公司では、工業用水の一部を循環使用しています。

「水質事故被害拡大防止訓練」へ参加

当社では、滋賀県ならびに湖南・甲賀環境協会などが万が一の事故発生を想定して行っている「水質事故被害拡大防止訓練」に積極的に参加し、琵琶湖を含む周辺の環境保全の重要性を再認識しています。2016年10月3日に行われた訓練は、協会会員・県・市環境行政など総勢65人が参加しました。



土の上による油のせき止め訓練(滋賀県)

地球温暖化対策

温室効果ガス排出量の削減

アキレグループが排出する温室効果ガスは、エネルギー使用（燃料、電気など）と、硬質ウレタンフォーム製造（フロン系をCO₂に換算）に伴う二酸化炭素排出が主体です。

2016年度は「温室効果ガス排出量を2010年度比6%削減」を目標に、積極的な環境設備投資によるエネルギー使用量の削減と、ノンフロン化への設備切り替えを進める活動をした結果、温室効果ガス排出量は2010年度比10.2%（1990年度比約88%）削減することができ、目標を達成しました。

📍 P38 温室効果ガス排出量推移

【対象範囲】 アキレス㈱足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美唄工場、九州工場/アキレスマリン㈱/アキレスウエルダー㈱

CO₂ 排出量

約**10%**
削減
(2010年度比)

物流の環境保全活動

二酸化炭素削減活動と排出量実績

2016年度の取り組みとして、モーダルシフト^{※1}の拡大展開、および積載率・大型車利用率の向上を推進し、輸送に関わるエネルギー原単位は約0.8%好転しましたが、生産量増による輸送トンキロ^{※2}の増加に伴いCO₂排出量^{※3}は約6.3%増加となりました。

- ※1 貨物輸送をトラックから鉄道や船に変えること。一度に大量の貨物を輸送することができ、CO₂排出量を抑える効果が期待されています
- ※2 輸送トンキロ=貨物重量「トン」×輸送距離「キロメートル」
- ※3 CO₂排出量 (t-CO₂) = エネルギー使用量 (GJ) × 排出係数 (経済産業省より)

📍 P38 輸送に伴う二酸化炭素排出量、モーダルシフト率

【対象範囲】 ISO-14001：2004 認証取得事業場



鉄道輸送用のコンテナへの積み込み

物流による
CO₂ 排出量
約**6%**
増加
(2015年度比)

太陽光発電によるエネルギー創生

当社の太陽光発電設備容量は、2012年度の初回設備導入以後2回の設備増設を経て、足利・滋賀合計で1,535KWです。

2016年度の発電電力量約1,790千KWhは、CO₂排出量の削減効果約701t-CO₂となり、2016年度のエネルギー使用によるCO₂排出量の約1.7%に相当します。

📍 P38 太陽光発電設備

CO₂排出量の削減効果

約**701t-CO₂**
相当削減



アキレス(株)足利第二工場 (2012年設置)

アキレス(株)足利第二工場 (2014年設置)

アキレス(株)滋賀第二工場 (2012年設置)

アキレス(株)滋賀第二工場 (2014年設置)

省エネルギー

省エネルギー活動

アキレグループでは、省エネルギー法に基づいた省エネルギー活動の重要性を認識し、環境負荷軽減の重点取組事項の一つとして全社を挙げ取り組んでいます。

エネルギー使用量（原油換算）

2016年度エネルギー使用量は、主なエネルギーである電気と燃料の使用量を低減することを目的に取り組みましたが、生産量増などに伴い前年度に対して約5.3%（1.3千kℓ/年）増加しました。

📍 P38 エネルギー使用量（原油換算）の年度別推移

【対象範囲】 アキレス(株)足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美唄工場、九州工場/アキレスマリン㈱/アキレスウエルダー㈱

エネルギー使用量
(原油換算)

約**5%**
増加
(2015年度比)

エネルギー原単位

2016年度は、「2015年度エネルギー原単位実績に対し、1%削減」を目標に設備の効率化改造や省エネ設備の導入に取り組んできましたが、製品構成の変化や小ロット生産の増加により、2015年度に比べ約1.4%増加し、目標値には達しませんでした。今後も省エネルギー活動を継続し、前年度エネルギー原単位1%削減を推進していきます。

📍 P38 全社および管理指定工場ごとのエネルギー原単位の年度別推移

【対象範囲】 アキレス(株)足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美唄工場、九州工場

エネルギー原単位

約**1%**
増加
(2015年度比)

設備の改造・導入による使用エネルギー削減

2016年度は、貫流ボイラー更新、高効率化機器への更新、既存設備の効率稼働、照明のLED化などの省エネルギー改善に取り組みました。

📍 P38 設備の改造・導入の主な内容と使用エネルギー削減効果（原油換算値）

【対象範囲】 ISO-14000：2004 認証取得事業場

設備の改造・導入による
使用エネルギー削減効果

約**260kℓ**
削減
(原油換算値)



3R活動と完全ゼロエミッション

廃棄物の削減に向けて

循環型社会の実現を目指して3R[※]活動を推進しています。特に廃棄物の発生量自体の削減を目指す発生源対策（リデュース）を重視し根本原因を追及、廃棄物の発生抑制に注力しています。

※廃棄物の発生抑制（リデュース）、部品などの再利用（リユース）、再生資源としての再利用（リサイクル）

廃棄物等削減活動結果

2016年度は、「2010年度（基準年）廃棄物排出量実績に対し12%削減」を目標に活動した結果、1,246トン増加となり未達という結果となりました。生産量の増加や生産構成の変化が原因と考えられます。今後は、既存のリサイクルフローを見直し、廃棄物の分別・選別の徹底、有価物化を推進し、生産量の増加に対しいかにして廃棄物発生量を抑制するかを課題とし、廃棄物の削減に注力していきます。

 P39 廃棄物等総排出量

【対象範囲】 ISO-140001：2004認証取得事業場

廃棄物等総排出量

1,246トン
増加
(2010年度比)

最終処分量状況

2016年度は、「完全ゼロエミッション（最終処分率[※]0.1%未満）を2020年度までに達成」を目標に活動した結果、最終処分率は0.02%（約1.5トン）となり、2015年度の0.05%に引き続き、完全ゼロエミッションを達成しました。

今後も完全ゼロエミッションの継続を目指し、分別・選別のさらなる徹底およびリサイクルに取り組んでいきます。

 P39 最終処分量および最終処分率

※最終処分率（%）＝最終処分量／総排出量×100

【対象範囲】 ISO-140001：2004 認証取得事業場

最終処分率

0.02%
(2016年度実績)

大気汚染防止

環境負荷物質の大気放出削減目標

アキレスグループは、「環境負荷物質の大気汚染防止」を全製造部門の共通テーマとしています。中長期目標としては「環境負荷物質の大気排出量を2010年度に対し、2020年度までに30%削減」を掲げ、労働安全衛生法、PRTR法[※]および大気汚染防止法に基づき、大気排出量を計画的に管理・削減に取り組んでいます。

※ Pollutant Release and Transfer Register：有害性のある多種多様な化学物質が、どこから、どのくらい、環境中に排出されたか、廃棄物として移動したかを把握し、集計・公表する仕組み

PRTR第一種指定化学物質削減

PRTR法に則り、該当物質の排出量などを把握した結果、2016年度のPRTR第一種指定化学物質の排出量は538トン/年（2010年度比21.0%削減）、移動量は231トン/年（同25.5%増加）となり排出量・移動量計769トン/年（同11.1%削減）となりました。

 P39 PRTR対象化学物質の排出量・移動量

【対象範囲】 アキレス(株)足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美眼工場、九州工場/アキレスマリン(株)

PRTR対象化学物質の
排出量・移動量

約11%
削減
(2010年度比)

VOC大気排出量削減

PRTR法対象物質を含むVOC[※]物質の中で特に大気への排出量の多い5物質（DMF、ジクロロメタン、トルエン、MEK、酢酸エチル）を「環境負荷物質」と定め、全製造部門でVOC物質から非VOC物質の代替物質への移行や大気排出量の削減を推進しています。

2016年は、2010年度比18%削減を目標に取り組んだ結果、11.7%削減となり目標未達成となりました。

 P39 環境負荷5物質の大気排出量

※ Volatile Organic Compounds：揮発性有機化合物の略称。
空气中に揮発する性質のある有機化合物

環境負荷物質の
大気排出量

約12%
削減
(2010年度比)

【対象範囲】 アキレス(株)足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美眼工場、九州工場/アキレスマリン(株)

社会と共に

アキレスグループは製品やサービスを通じて、より豊かで快適な社会づくりに貢献することを目指しています。また、さまざまなステークホルダーとの対話を通して取り組むべき課題を特定し、その対応に努めることで、社会の持続的発展に貢献したいと考えています。そして「アキレス調達基本方針」を定め、法令遵守や人権尊重などを含む企業の社会的責任(CSR)への取り組みをサプライチェーンに広める努力を行っています。

品質への取り組み

品質への考え方とマネジメントシステム

アキレスグループでは、「製品の安全性と品質の確保」を全従業員が徹底するよう、「アキレス行動指針」を定めています。またお客様のニーズや市場動向を的確に捉え、お客様に満足していただける製品・サービスを提供する仕組みの基準として、全事業部で品質マネジメントシステムの国際規格(ISO-9001)を取得し運用しています。そして「品質保証規定」で、各事業部の事業部長が品質保証の責任者として品質目標を設定し、安全で安心な製品・サービスの提供に努めることを定めています。また品質保証本部は、各事業部の製品企画・開発、生産、販売の各プロセスにおいて、適宜適切な提案を行い、品質保証体制の維持・向上に努めています。

アキレスグループ品質基本方針

当社は、「社会との共生」=「顧客起点」の企業理念に基づき、顧客や消費者の立場に立って顧客満足を得られる製品を提供すると共に、製品の安全性確保や関連する法令等を遵守し、社会的責任を果たす為下記の基本方針を定めます。

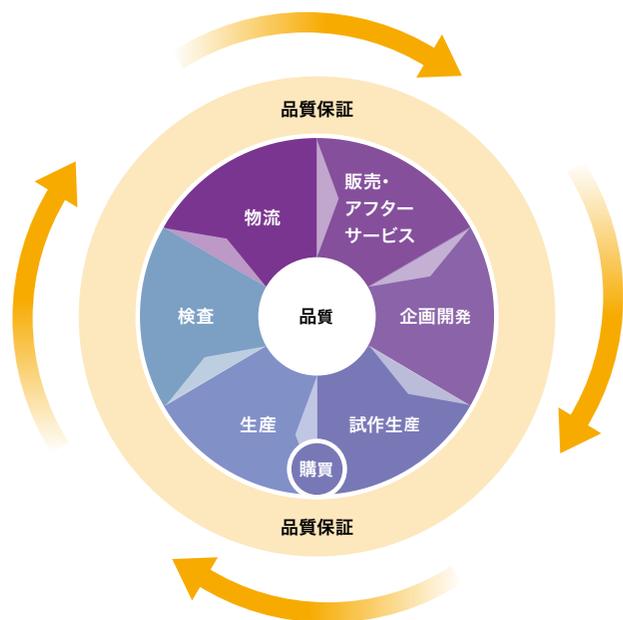
- 1 全員が市場の声に耳を傾け、顧客のニーズに応えた魅力ある製品・サービスを提供する。
【顧客満足の向上】
- 2 使用時の安全性確保は製品の品質保証の中でも重要事項である事を認識し、製品の設計、製造、販売など全工程にわたって製品安全の確保に努める。
【製品安全の確保】
- 3 製品に係わる法令及び当社が同意した規格、顧客基準を遵守する。
【法令遵守】
- 4 環境負荷低減に配慮した製品の設計、製造、販売活動を行う。
【環境への配慮】
- 5 これらの活動を効果的・効率的に行うために業務を見直し、継続的な改善を進める。
【継続的改善】

●ISO-9001：2008認証取得状況

登録組織名	取得年月	登録番号
アキレス㈱ シューズ部門	2007年 10月	JUSE-RA-2088
アキレス㈱ プラスチック部門	2003年 4月	JUSE-RA-2090
アキレス㈱ 産業資材部門	2004年 2月	JUSE-RA-2089
ACHILLES USA, INC.	1998年 4月	33354
三進興産㈱ 上尾工場	2006年 9月	JQA-QMA12936

品質保証の仕組み

当社の品質保証本部は、各事業部の製品企画・開発、生産、販売の各プロセスにおいて、適宜適切な提案を行い、品質保証体制の維持・向上に努めています。



企画・開発

- お客様からのご要望および安全・安心を考慮した製品設計を検討しています。
- 素材および使用材料の安全性の検証をしています(使用禁止・制限化学物質、および健康に影響を与える物質を含まないことを確認)。
- 製品の加工時、施工時、および使用時を想定した要求物性への適合試験を実施しています。
- プロセスごとに品質保証部を交えたデザインレビューを実施しています。

購買

- 企画・開発、製造部門と連携し、使用する材料の安全性、環境性、および調達先の品質保証体制などを調査した後、購買品を選定しています。
- 調達先には「アキレス調達基本方針」の遵守を促すことで、企業の社会的責任(CSR)への取り組みをサプライチェーンに広めています。また調達活動においていかなる違反行為にも加担しません。

生産

- 製品ごとに生産ラインに適した工程管理と検査方法を定め、効率生産と品質安定化を推進しています。
- 地球環境への負荷低減を図るため、地球温暖化防止と省エネルギー、3R(リデュース、リユース、リサイクル)活動や大気汚染防止などを推進しています。
- 製品の品質向上および技能レベル向上を目的に、全ての従業員に対し教育指導を実施しています。
- プロセスごとに品質保証部を交えたデザインレビューを実施しています。

販売・アフターサービス

- お客様からの当社製品・サービスへのご相談やお問い合わせは、販売担当部署でお受けする以外に「お客様相談室」でもお受けしています。いずれの窓口でも、お客様のお声に耳を傾け、迅速に対応するように努めています。
- 想定外の重大問題が予想される場合は、お客様の安全を第一に考え、情報開示と迅速な対応を行います。
- 環境対応設計製品に関しましては、お客様が類似他品との環境効果を容易に比較できるように努めています。

労働安全衛生・防火防災への取り組み

労働安全衛生の考え方とマネジメントシステム

アキレスグループ安全衛生方針

「安全の誓い」にうたわれている、「健康にして、安全の確立こそ、会社発展の源であり、私たちの明日への生活向上の基盤であります。私たちは、安全を確保し、人の和を築き、私たちの明日への活力を生み出すことを日々心新たに誓います。」のように、安全と健康の確保は事業活動の基本であり、安全で働きやすい職場環境を確保するために、次の事項を実施します。

- 1 安全は全ての基本であり、アキレスグループ従業員一人ひとり、安全を全てに優先します。
- 2 安全と心身の健康確保のため、全員参加で、安全衛生活動を積極的に推進します。
- 3 安全衛生に関係する法令および会社方針・規則等を遵守します。
- 4 安全衛生水準向上のため、労働安全衛生マネジメントシステム等を適切に活用し、継続的改善を図ります。
- 5 日ごろより、5S(整理・清掃・整頓・清潔・躰)を欠かさず、安全で衛生的な職場環境を維持します。
- 6 全ての従業員に対して、安全衛生の重要性を周知し、必要な教育・訓練を実施します。

主な安全衛生管理活動

安全衛生

当社では、各事業場で安全衛生委員会を開催し、従業員へは法・指針に基づいた安全衛生教育の実施、法に基づく各種有資格者の養成など、安全衛生体制を確立しています。また、作業・設備のリスクアセスメントを実施し、結果に基づく改善を行い、本質安全化を図っています。



フォークリフト運転業務従事者安全衛生教育（足利工場）

●安全衛生委員会委員割合

事業場	安全衛生委員(人)	従業員数(人)	従業員に対する安全衛生委員の割合(%)
本社	12	290	4.1
関西支社	6	65	9.2
北関東営業所および シューズ物流センター 東日本物流課	9	77	11.7
足利第一工場	19	567	3.4
足利第二工場	16	261	6.1
滋賀第一工場	12	93	12.9
滋賀第二工場	14	112	12.5
合計	88	1,465	6.0

※2017年3月31日時点

労働災害の状況

2016年度の当社における労働災害の発生状況は、下記の通りです。2016年度のゴム製品製造業（従業員1,000人以上）の平均度数率0.34に対し、当社の度数率は1.30でした。また強度率は、ゴム製品製造業（従業員1,000人以上）の平均強度率0.02に対し、0.08でした。

●度数率・不休災害度数率・強度率（単体）



※1 度数率=労働災害死傷者数÷延べ実労働時間数×1,000,000 ※2 不休災害度数率=不休災害者数÷延べ実労働時間数×1,000,000 ※3 強度率=延べ労働損失日数÷延べ実労働時間数×1,000

安全意識の啓発

当社では、安全への意識高揚のため、年間行事として年2回の安全祈願（年初と全国安全週間初日）を実施し、年間を通じて各種無災害運動（全国安全週間、年末年始、期末）、交通安全運動を実施しています。2016年度は足利・彦根警察署の協力により交通安全講話を実施しました。また社員が各自記入した「安全の誓い」を各職場に年初から掲示し、社員への安全意識の啓蒙を図っています。



安全祈願（足利工場）

健康管理

当社では、定期健康診断および特殊健康診断などを実施し、結果に応じて産業医などによる事後対応の指導を実施しています。健康診断結果以外にも社員の心と身体の悩みに対して、産業医・看護師によるメンタルヘルスケア、健康相談・指導を実施しています。また、THP（トータル・ヘルスプロモーション・プラン）推進活動として、各種健康増進イベントへの参加を促進しています。



健康づくり講演会（足利市）



健康づくり実践教室（足利市）

防火・防災の考え方とマネジメントシステム

アキレスグループ防火・防災基本方針

防火・防災は企業の基本管理項目であり、火災発生や地震に代表される自然災害を被ると、それまでの状況が一変して会社存亡の危機に直面することがあります。また、地域住民に多大な迷惑をかけ社会公共の福祉の増進にも反します。

アキレスでは、日頃から緊急事態に備え、身体及び財産を保護する予防措置を講じ、災害発生を未然に防止すると共に、万一発生した場合の人的・物的被害を最小限に抑えることに努めています。

総合防火・防災訓練

当社では、各地区で防火・防災委員会を設け、各事業場においては、防火・防災意識の啓発・高揚および防火活動に関する技術の習得を目的とした、総合防火・防災訓練を毎年定期的を実施しています（製造部門社内火災予防運動は年3回実施、本社・関西支社防災訓練は年1回以上実施）。

2016年10月には足利第一工場において、足利市消防本部との連携で総合防災訓練を実施しました。訓練では、震度6強を想定した、初動対応、通報、避難、安否確認訓練などを実施しました。また足利市消防本部による消防車による放水訓練と煙体験訓練を実施しました。



足利第一工場での総合防災訓練

心肺蘇生法講習会

当社では2016年10月に足利地区で足利市消防本部による心肺蘇生法（人工呼吸、心臓マッサージ、AED機器の取扱訓練）の講習会を行いました。

食糧など備品の備蓄

当社の各事業場では、震災などの有事に備えた食料などの備品を備蓄しています。

株主様と共に

基本的な考え方

当社は、企業価値の向上に努め、存在意義を示し、株主・投資家の皆様のご期待に応える会社を目指しています。株主・投資家の皆様に対しては、法令を遵守した方法で、タイムリーに、公正で正確な情報を分かりやすく開示することに努めています。そして、情報開示を含むIR活動を通して、株主・投資家の皆様との対話を行っています。

報告書・中間報告書

当社ではホームページでの情報開示と併せて、事業概要を分かりやすくとりまとめた報告書を株主の皆様へ半年ごとに年2回お送りしています。報告書では、アキレスの代表取締役社長からの事業環境および業績概要の説明に加え、連結財務諸表、各事業の業績・新商品情報、ならびにアキレスグループのトピックスなどをご案内しています。

また当社では、毎年6月に定時株主総会を開催し、株主の皆様と直接対話を行っています。株主総会終了後には、新商品・新技術をご紹介し、株主の皆様から直接ご意見をうかがう機会を設けています。



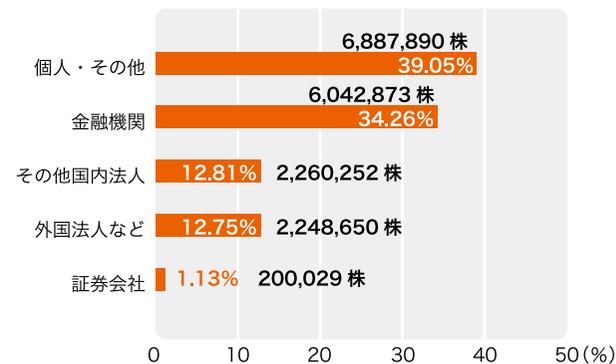
株主の皆様への報告書

株式の状況

●株式の総数など（2017年3月31日現在）

発行可能株式総数	70,000,000 株
発行済み株式の総数	18,362,714 株
株主数	14,383 人

●株式分布状況（2017年3月31日現在）



※左記のほか、当社保有の自己株式723,020株があります

【注】2016年10月1日を効力発生日として当社普通株式10株につき1株の割合で株式併合を実施しています。なお、株式併合に伴い、単元株式数を1,000株から100株に変更しています。

お客様と共に

基本的な考え方

当社は「社会との共生」＝「顧客起点」の企業理念のもと、お客様の真の満足と感動を戴ける製品の創造とサービスの提供を通して、豊かな社会の実現に貢献することを目指しています。また、お客様の顕在的・潜在的ニーズを把握するため、お客様との対話の機会を大切に考えています。その役割を担う窓口の一つとして「お客様相談室」を設けています。

対応品質向上への取り組み

お客様相談室では2016年度は「お問い合わせ」と「ご意見」を合わせて5,487件のお電話やメールなどをいただきました。

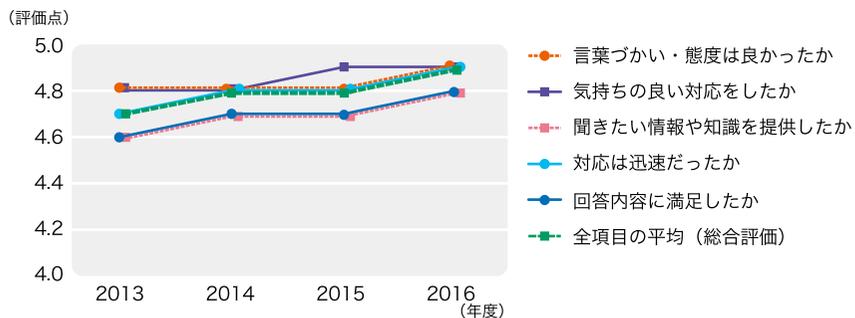
また、お客様相談室では、対応品質向上に向け、2012年度より、お客様アンケートによる対応品質評価の把握と改善活動を行っています。アンケートでは、①言葉づかひや態度②気持ちの良さ③情報や商品知識の提供④迅速さ⑤満足度の5項目を5段階で評価していただいています。

2012年度の全体の評価点は4.5でしたが、毎月度、担当者別・項目別の点数を確認し合い、お互いに問題点を指摘し合いながら改善を重ねた結果、2016年度の全体の評価点は4.9まで向上しています。

アンケートの中には「今回のように、早急かつ大変親身になってくださる窓口があると、今後も末永く安心して購入していけると思います」「気持ちの良い対応をして頂き、親も子どもも満足しています。調査結果の説明も分かりやすく、会社の質の高さが感じられました」といった嬉しいコメントもありました。

お客様がいつでも気軽にご連絡できるお客様相談室であることを目標として、今後も対応品質の向上に努めます。

●お客様アンケートによる対応品質評価の推移



お客様の声のフィードバック

お客様アンケートと並行して、「瞬足」アンケートも実施しており、頂戴したアンケートは、お電話やメールでのご要望とともに、毎月度、関係部署にフィードバックし、品質向上や製品開発に生かしています。

その事例の一つとして、瞬足レモンパイや瞬足足育シリーズに対して、下記の声が多く寄せられました。

「瞬足」はもともと「速く走る」がコンセプトの商品のため、スポーティーなタイプが多かったのですが、『カジュアル』『シンプル』『お洒落な』『ナチュラル』な商品が欲しいとの声が多く集まり、商品開発のヒントになりました。



瞬足レモンパイ315



瞬足足育C-224



瞬足足育C-226

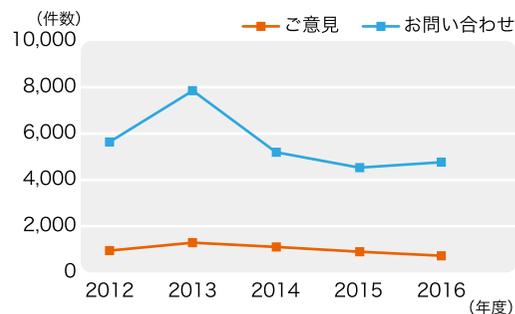
お客様とのコミュニケーション強化

お客様との距離を近くし、接点を増やすための取り組みも進めています。

特にシューズのお問い合わせが多いことをふまえ、「シューフィッター」（足と靴の専門資格）の取得を進め、2015年度より、お客様相談室の従業員4人全員が「シューフィッター」となり、その知識を活用しながら、単なるクレームやお問い合わせ対応だけでなく、靴に関連するお客様からのさまざまなお悩みなどへの相談にもあたっています。シューフィッターとしての対応は、他社との大きな差別化にもつながっています。

そして、以前から実施している「足育（そくいく）相談室」としての活動も、さらに活発化させています。当社ショールームに来社いただいて「足型測定とカウンセリング」を行うサービスと、小学校などに出向いての足と靴に関する「出前講座」も、引き続き好評をいただいています。

●お客様相談室に寄せられるお問い合わせとご意見の件数推移



「出前講座」は、シニア向けの需要も高まりつつあり、今後、積極的に取り組んでいく予定です。

また、当社は、消費者課題に取り組んでいるACAP[®]に参加しています。ACAPでは定期的に産学共同で大学生向けに、消費者課題に関する講演を行っています。

当社も、企業における「お客様相談室の役割」や「お客様の声を商品やサービスの改善に生かす取り組み」などのテーマで講演を行いました。

※ACAP：消費者関連専門家会議。約600社が参加しています。<http://www.acap.or.jp/>

取引先様と共に

基本的な考え方

アキレグループは「企業行動憲章」に従い、法令遵守はもとより倫理的な行動に努め、公正かつ自由な取引を通じてお取引先様と長期的な信頼関係を構築し、相互協力により共存共栄の関係を図っております。また、「アキレス調達基本方針」を定め、環境に配慮した持続可能な調達と法令遵守ならびに人権尊重などへの取り組みをサプライチェーン全体に広めています。

アキレス調達基本方針

基本方針

- 1 公正・透明な取引
- 2 企業倫理および関連法令の遵守
- 3 環境への配慮、保安防災への取り組み
- 4 人権尊重、児童労働・強制労働の禁止、労働・安全衛生の配慮
- 5 製品・サービスの安全性・品質の確保
- 6 個人情報・製品情報を含む情報セキュリティの維持・推進
- 7 お取引先様との共存共栄
- 8 お取引先様の知的財産・資産等の適正管理
- 9 紛争鉱物*問題への対応

お取引先様の選定方針

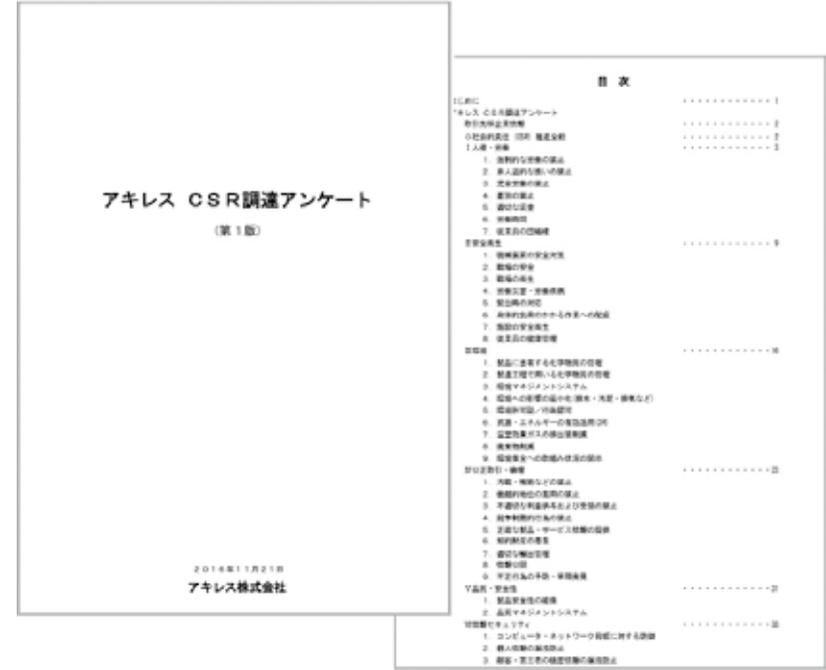
お取引先様の評価・選定の基本方針は以下の通りです。

- 1 経営状態が健全であること。
- 2 安定供給力と生産変動への柔軟な対応力があること。
- 3 上記基本方針を含め社会的要請に配慮する取り組みを行っていること。
- 4 価格・品質・納期・技術力・サービスのレベルが適正であること。

*その採掘や取引が武装集団の資金源となり紛争を助長、あるいは人権侵害、労働問題などに密接に関連している鉱物。2010年7月に米国で成立した「金融規制改革法」において、コンゴ民主共和国および隣国において産出される鉱物のうち、タンタル、錫、金、タングステン、そのほか国務省が判断する鉱物が紛争鉱物とされた。また米国上場企業に対し、紛争鉱物を使用する場合は米国証券取引委員会（SEC）に報告することが義務付けられた。

CSR 調達の取り組み

当社では年に1回、取引先審査を実施して調達基本方針の遵守のチェックを行っています。また2016年度は主要取引先に対して「CSR調達アンケート」を実施し、お取引先様のCSR活動への取り組み状況を把握しました。結果に基づき実効性を上げる取り組みを推進します。



CSR調達アンケート

従業員と共に

基本的な考え方

アキレスグループは、従業員を重要なステークホルダーと位置づけています。「アキレス企業行動憲章」で「従業員の多様性、人格、個性を尊重するとともに、安全で働きやすい健康的な職場環境を確保し、ゆとりと豊かさを実現します」と定め、その実践として必要な制度や活動内容を決定し推進しています。その根幹にある考え方は、従業員との「共存共栄」です。

人権尊重・公平

アキレスグループは、法のもとでの雇用関係を遵守し、違法労働や児童労働、性的差別、人種差別、宗教的差別などの人権侵害を行いません。またこれらの行為に加担しません。「アキレス行動指針」において、人権尊重を含む倫理的行動および遵法をグループの全従業員が誓約しています。

アキレスグループでは、全ての従業員に対し公平・均等に機会を与えるように努めています。パワーハラスメント・セクシャルハラスメントを禁止し、社内外に相談窓口を設けています。

雇用の状況

アキレスグループでは、安定した雇用の維持と雇用機会の拡大を図るため、計画的な雇用に努め、均等な雇用機会を提供しています。

●従業員数（連結） ※2017年3月31日現在

男性	1,419人	女性	336人	合計	1,755人
----	--------	----	------	----	--------

●従業員基本データ（単体） ※2017年3月31日現在

平均年齢	男性 41.3 歳	女性 43.9 歳	全体 41.7 歳
勤続年数	男性 19.4 年	女性 22.8 年	全体 20.0 年
平均年収	約 574 万円		

●人材（単体） ※2017年3月31日現在

役員（執行役員を含む）	男性 25 人	女性 1 人	合計 26 人
部長職	男性 43 人	女性 0 人	合計 43 人
課長職	男性 211 人	女性 5 人	合計 216 人

●定年退職者再雇用制度（単体） ※2017年3月31日現在

2016 年度制度利用者	154 人
--------------	-------

個人情報保護

アキレスグループでは、個人情報管理規定を設け、そのうち「従業員の個人情報管理」に関する部分を独立した条文として、従業員の個人情報を保護・管理しています。また「従業員の個人情報」については、社内システム上で複数階層のセキュリティを設定し、アクセス可能な人員を限定しています。

福利厚生

当社では、各地の事業場所在地において、独身寮、社宅などの施設および、社員持株制度などによる社員生活安定の支援を行っています。また少子高齢化社会における仕事と家庭の両立支援策として、育児・介護休業制度などを設けています。

●育児休業制度（単体）

2016 年度制度利用者	男性 0 人	女性 10 人	合計 10 人
--------------	--------	---------	---------

●介護休業制度（単体）

2016 年度制度利用者	0 人
--------------	-----

●年間平均総実労働時間（単体）

2016 年度実績	1,966.9 時間
-----------	------------

●平均有給休暇取得日数（単体）

2016 年度実績	8.6 日 (47.1%)
-----------	---------------



独身寮／本社

労働組合

労使関係

当社には、アキレス労働組合とアキレス本社労働組合の2つの労組があります。共に労使の相互信頼をベースに、会社方針に則り会社発展に貢献することで、従業員の生活維持・向上につなげていくとの基本方針のもと、充実した労使のコミュニケーションを図り、労使協調した取り組みを進めています。

アキレス労働組合には、製造部門で働く従業員（役員、管理職を除く）823人*が加入しています。また、アキレス本社労働組合には、営業部門で働く従業員（役員、管理職を除く）225人*が加入しています。

※2017年7月1日時点の加入員数

労働組合との協議状況

当社では、年2回の給与および賞与の協議と関連し、年3回の運営協議会（5月、9月、11月）を定例的に開催しているほか、人事諸制度の変更や福利厚生に関する内容など労働条件に関する変更や新設などは、労使で協議し、合意の上で実施しています。また、安全衛生、環境、資格制度、再雇用など、労使双方による委員会で検討し、公平かつ適正な運用を図っています。

【主な労使協議】

運営協議会（年3回） 本部労使協議（原則月1回とし、都度実施）
支部労使協議（原則月1回とし、都度実施） 支部協議（都度実施）

労使共催行事

当社では、健康増進・コミュニケーション向上などを目的とした労使共催の行事により、労使間の交流を図っています。新入社員を迎えるソフトボール大会・ボウリング大会は定例行事となり、所属部署の枠を超えて従業員同士の親睦を深めるコミュニケーションの場となっています。



赤い羽根共同募金活動（足利地区）



新入社員歓迎ボウリング大会（東京本社）



アキレスウォーク（足利地区）



京都金閣寺・龍安寺ウォークラリー（滋賀地区）



みかも山ウォーク・いちご祭り（足利地区）



フラワーアレンジメント教室（足利地区）



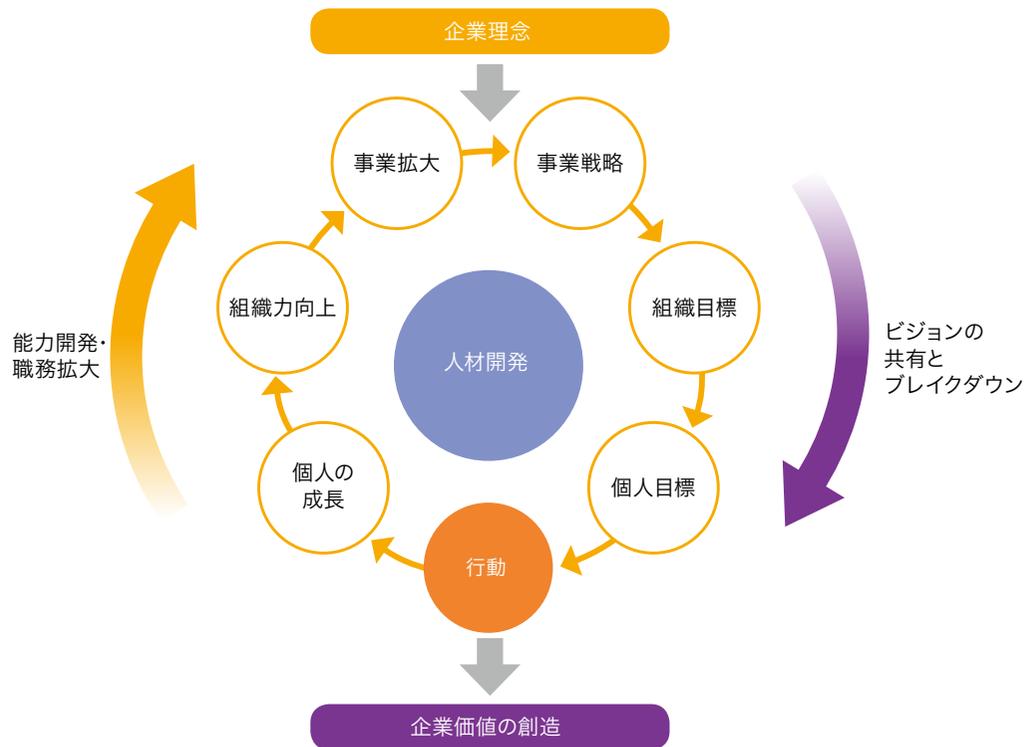
チーム峯岸 ヨガ教室（東京本社）

人材開発

変化の激しい社会環境の中で生き残っていくためには、社員一人ひとりの人間力の向上を図り、企業価値を次々と創造し続ける集団になることが必要です。そのために、当社では人材開発を積極的に推進しています。「人」という経営資源のパフォーマンスを向上させるとともに、一人ひとりの成果を組織成果に結び付けることで組織全体を活性化し、社員がその能力を存分に発揮しながら生き生きと働ける環境を創り出しています。アキレスグループは、社員一人ひとりの人間力の育成とそれを生かせる組織づくりに取り組んでいます。

人材開発基本方針

1. 明確なビジョンを描き、その達成のために適切なリーダーシップを発揮できる人材を育成する。
2. リーダーの描くビジョンを実現するため自ら問題を発掘してその解決を図り、仕事の付加価値を高めることのできる人材を育成する。



人材開発体系

当社の人材開発は「人材開発基本方針」のもと、社会に必要とされる企業であり続けるために、企業価値の持続的向上に資する幅広い知識・経験と複数の専門性を兼ね備えたリーダーの育成を目指しています。

OJT (オン・ザ・ジョブ・トレーニング=業務内指導)

当社の人材開発の基本はOJTです。上司と連携して業務目標を決め、課題達成にチャレンジし、適時にレビューを行います。コミュニケーションを通して気付きを促し視座を高めていきます。

Off-JT (オフ・ザ・ジョブ・トレーニング=集合研修)

当社では、各自の役割に
応じて求められるスキル
や専門知識の習得は、集
合研修で支援しています。



グローバル研修風景(東京本社)

一般職研修風景(足利工場)

SD (セルフディベロップメント=自己啓発)

当社では、社員の能力向上意欲に敬意を表し、補助金支給制度を設けて通信研修を奨励しています。これにより一人ひとりが必要と考える科目を選択し、自分の能力向上につなげています。

●教育研修体系(単体)

	役員	事業部長	部長	課長	各階層	新人
幹部育成						
グローバル						
管理職						
階層別						
コンプライアンス						
専門性						
OJT支援						
自己啓発						

●2016年度の主な集合研修

研修区分	研修数	参加者数
幹部育成研修	11回	226人
グローバル研修	82回	322人
管理職研修	4回	223人
一般職研修(うち、新人研修)	24回(2回)	601人(52人)
コンプライアンス研修*	8回	1,889人
専門性向上研修	13回	422人
通信教育	1回	133人
安全衛生研修	8回	408人
災害対応研修	1回	40人

※コンプライアンス研修はアキレス国内グループ全従業員の実績です。ほかの研修はアキレス(株)の従業員の実績です。尚、参加者数は、研修区分内の各研修テーマに参加した従業員数の合計数です。

地域社会と共に

地域社会の一員としての取り組み

アキレスグループは、CSR重要テーマの1つとして、地域社会とのコミュニケーションや社会貢献活動を重んじ、地域の発展に貢献することに取り組んでいます。当社では、拠点をおく地域において、教育機関の見学・研修の受け入れや防災訓練への参加、各種イベントへの協賛など、地域団体と共同で地域活性化に協力しています。

「びわ湖の日」美化活動【滋賀県】

毎年7月1日(びわ湖の日)に滋賀県が主催し、琵琶湖岸の美化活動が行われています。当社は滋賀県に拠点を
持つ企業として、毎年活動に参加しており、平成28年度も
美化活動に参加しました。



「びわ湖の日」琵琶湖岸の清掃作業

盛岡・北上川ゴムボート川下り【岩手県】

2016年7月24日「第40回盛岡・北上川ゴムボート川下り大会」が開催され、785艇、1,570名が出走し、771艇、1,542名が完走されました。

この大会は、完走艇数と参加者数で世界ギネス記録を持つ大会です。今回は、惜しくもギネス記録には及び
ませんが、参加者は、レースでゴムボートを安全
かつ効率良く、そして楽しく操船する技術を競い合
うと同時に、何よりも北上川流域の美しい自然を満喫
していました。

この大会は、美しい自然と触れ合いながら地域経済
の活性化に役立つイベントとして、当社を含めた多くの
個人や団体が支援を行って
います。当社は大会ゼッケ
ンのスポンサーを担ったほ
か、入賞景品の提供や、更
衣室用として当社製エア
テントを貸し出すことを通
じて、本大会をサポートし
ました。



第40回盛岡・北上川ゴムボート川下り大会風景
(写真：株式会社ハイ・ジャンクション提供)



足利花火大会【栃木県】

2016年8月6日に足利商工会議所主催による「第102回足利花火大会」が開催され、アキレスグループも地元企業として協賛しました。同花火大会は1903年に始まった歴史ある大会で、毎年40万人規模の観客でにぎわいます。今回も約2万発もの花火が打ち上げられ、夜空が明るく染まるたびに観客から大きな歓声が上がっていました。



第102回足利花火大会 (写真：足利商工会議所提供)

足育(そくいく)活動【東京都】

当社本社ショールームでは、毎週火～金曜日の13:00～17:00に足育相談を実施しています(完全予約制)。また、全国各地の大型ショッピングセンター特設会場でも足育活動を実施するほか、ホームページの受付窓口などからの申し込みに応じて小学校などで出前講座を開き、足に合った靴の選び方、正しい靴の履き方などの情報を提供しています。



当社本社ショールームでの「足育(そくいく)」相談 (東京都新宿区)



小田急百貨店 町田店での「足育(そくいく)」相談 (東京都町田市)



第14回ジュニア陸上競技チャレンジカップでのレース風景 (東京都品川区)



第14回ジュニア陸上競技チャレンジカップでの「足育(そくいく)」相談 (東京都品川区)

福祉施設へのウレタンカット品の提供【滋賀県】

当社では、車椅子や休憩用の長椅子の座面に使って頂くよう、当社の滋賀第二工場で製造している軟質ウレタンフォームのカット品をボランティアグループ「こうら工房心」のカバーと併せて、共同で滋賀県内の複数の福祉施設に提供しました。



滋賀県立甲良養護学校への贈呈 (滋賀県犬上郡甲良町)

地域住民とのコミュニケーション【栃木県】

当社では、当社の物造りや環境への取り組みなどについて、地域住民の方々にご理解頂くことと併せて、貴重なご意見を拝聴する場として、地域の他の団体などと協力して、工場見学の受入を行っています。



足利市主催による当社シューズ工場見学風景 (足利第一工場)



栃木県主催による当社の廃棄物処理に関する取り組み説明風景 (足利第一工場)

社会との共通価値創造につながる取り組み

環境配慮型商品の開発

当社は、温室効果ガス排出量を低減する省エネ効果が高い断熱資材各種を開発販売しています。また、環境負荷低減につながるライフサイクルの長寿化や、リサイクルを考慮した素材選定などを製品設計時に行っています。

最高水準[※]の断熱性能を有する「ジーワンボード」(Z1ボード)

建物室内の保温効果を高めることで冷暖房時の消費エネルギーを抑える効果が高まります。つまり、温室効果ガス排出量低減効果です。

建物室内の保温効果を高める方法として、熱伝導率の低い材料を外気と内気の境界(壁面)に使用することが一般的に行われています。

当社は、熱伝導率 $0.018W/(m \cdot K)$ という業界最高水準[※]の断熱性能を有するボード型の断熱製品「ジーワンボード」(Z1ボード)の開発に成功し、2017年10月より販売を開始します。



「ジーワンボード」(Z1ボード)

[※]2017年3月末時点で発売されている建築用断熱材のうち、真空断熱材など断熱性能の発現機構が一般の繊維系断熱材、発泡プラスチック系断熱材とは異なるものは除く。

アルミ素材の採用でリサイクルに配慮 Poseidon「HB-310AX」

当社は、廃棄時のリサイクルに配慮し船底部分にアルミ素材を採用したインフレーターボート Poseidon「HB-310AX」を2017年3月より発売開始しました。



Poseidon「HB-310AX」

ダイバーシティ

日本社会が直面している最大の課題は人口減少です。企業にとっても、国内市場の縮小や労働力不足などに発展する深刻な問題です。

その解決策の一つとして注目されているダイバーシティへの取り組みは、アキレスグループにおいても重要と位置づけています。

障がい者を支援する「チーム峯岸」との取り組み

当社は、2016年1月より、車椅子競技で活躍しているアスリートを、ヨガを取り入れたトレーニング方法で、心と身体づくりの両面から支援している峯岸道子氏とアドバイザー契約を結びました。チーム峯岸ではヨガを通じて、障がいを持つ方々との幅広い取り組みを行っています。



養護学校の生徒・父兄の皆さんへのヨガ教室風景
障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール(神奈川県)

人権(ダイバーシティ & インクルージョン)社内研修

ダイバーシティに取り組む上で、まずは、人権について省みる機会を役員と管理職で共有しました。また、ダイバーシティを推進する必要性と留意点についても確認しました。



研修風景(本社:東京都新宿区)

社会課題解決型商品の開発

アキレスグループは商品開発を通して、さまざまな社会課題解決に貢献しています。

足元から健康をサポート 「ソルボセイン」[※]靴用インソール製品

高齢化社会の到来で健康寿命を延ばすことは日本社会全体の課題になってきました。また、高齢者の方々の健康志向も高まりつつあり、野外活動の機会が増える一方で、足にトラブルを抱えてしまうリスクも高まっているようです。

三進興産株式会社は、衝撃吸収性素材を組み合わせた靴用インソールなどの開発・製造・販売を通じて、足への衝撃負担を軽減させたいと考えています。また、自分に適した靴と靴用インソールを選ぶことと正しく靴を履くことが、足への負担やトラブルを防ぐ上での重要なポイントだと考え、店頭でのイベントなどを通じて啓蒙活動を行っています。

※「ソルボセイン」は三進興産が製造販売を行っている衝撃吸収性と圧力分散性を持った機能素材です。

<https://www.sorbo-japan.com/sorbo/sorbo.html>

「ソルボセイン」[※]靴用インソール製品



「ソルボライト」

「DSISソルボヘルシー」

衝撃吸収性、反発弾性、耐久性を実現した 自社開発素材「MEDIFOAM」を搭載した ランニングシューズ「MEDIFOAM/メディフォーム」

当社は、マラソンブームで増加する市民ランナーをサポートすることを目的にランニング時の衝撃を和らげ、楽に走れるランニングシューズ「MEDIFOAM/メディフォーム」を開発しました。

インソールかかと部には「ソルボセイン」^{※1}を搭載し、ミッドソールに配した「MEDIFOAM」とあわせて2段階で接地時の衝撃を吸収するとともに、蹴り出す際には「MEDIFOAM」が持つ反発弾性により、EVA^{※2}素材とは異なるスムーズな反発が得られます。

※1「ソルボセイン」は三進興産株式会社の登録商標です。

※2 エチレン-酢酸ビニル共重合樹脂の略称です。



ランニングシューズ「MEDIFOAM」MFR 1000 (Red)



「MEDIFOAM」アッパー・ソールの構造と機能

社会との共通価値創造につながる取り組み

認知症患者の徘徊を早期に検出、発見できる 見守りシステム搭載シューズ

当社は、加藤電機(株)との協業により、自宅や介護施設から認知症患者が突然いなくなる徘徊を早期検出し、捜索・発見できる位置検出シューズ「見守りシステムSANフラワー×ヘルシーライフ」の開発を行いました。

製品は、2017年6月上旬よりアキレスWEBショップ (<http://achilles-webshop.com/>) にて個人のお客様向けに限定販売を行っています。

小型レーダー
(SANレーダー、開発:加藤電機(株))

介護施設、個人宅等に設置する
GEOフェンス型中継機
(GEOフェンスSANアンテナ、開発:加藤電機(株))



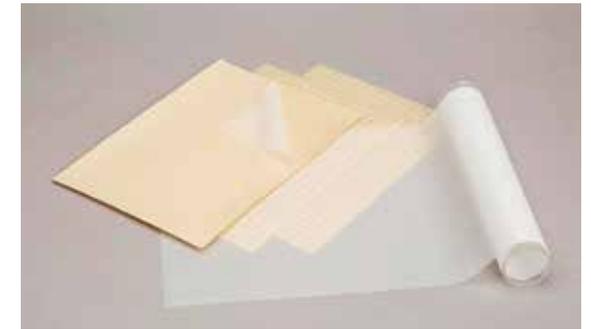
小型軽量発信機
(SANタグ、開発:加藤電機(株))

シューズ
(ヘルシーライフ HLI 5000 ページュ、開発:アキレス(株))

付着したウイルスの活動を抑制するフィルム 「アキレス ウイルセーフ」

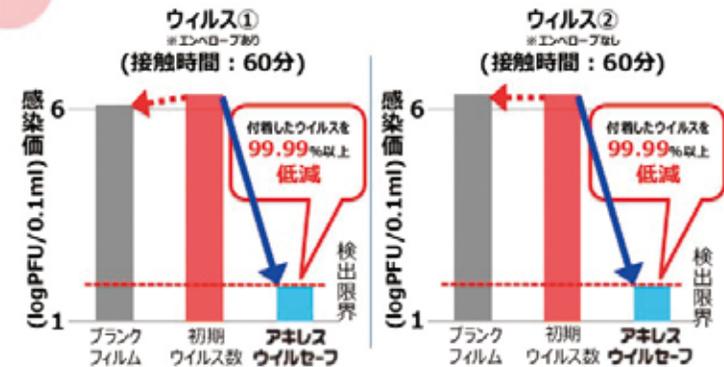
当社は、ウイルスの活動を素早く抑制する(株)NBCメッシュテックのウイルス細菌抑制技術「Cufitec®(キュフィテック)」を、当社の製膜技術を用いてフィルム表面に再現させた製品「アキレス ウイルセーフ」を開発しました。

接触感染のリスク低減を想定し、人が触れる手すりや押しボタンの表面に貼り付けることが可能な厚み100 μ の粘着タイプの製品を標準規格品として販売しています。



アキレス ウイルセーフ

抗ウイルス性：高い抗ウイルス性能が確認されました



試験機関：NPO法人バイオメディカルサイエンス研究会
試験方法：ISO18184：2014を応用

アキレス ウイルセーフの抗ウイルス性能

マネジメントについて

当社の経営の基本方針は、「『顧客起点』のもと、お客様の真の満足と感動を戴ける製品の創造とサービスの提供を通して、豊かな社会の実現に貢献する」という企業理念を実践し、持続的に企業価値を高め、いくことにあり、株主の皆様をはじめとする全てのステークホルダーに存在意義を示し、お応えしていく会社になることを目指しています。

この経営方針を実現するために、「経営の効率化」「経営の意思決定の迅速化」および「経営の公正性・透明性の確保」と併せて「経営のチェック機能の充実」を重要課題としています。また、経営の公正性と透明性を高めるために、積極的かつ迅速な情報開示に努めるとともに、インターネットを通じて財務情報の提供を行うなど幅広い情報開示にも努めています。

コーポレートガバナンス

コーポレートガバナンス体制

当社においては、取締役会が業務執行状況を監督し、業務執行については、各部門を担当する取締役もしくは部門長に責任と権限を与え、経営の効率的な運用を図っています。

また、1人の社外取締役が客観的・中立的観点から取締役会を通じて経営の監督機能を発揮するとともに、2人の社外監査役（うち1人は女性）が取締役会に出席し、取締役会の意思決定の妥当性・適法性を社外の視点でチェックしており、十分に経営の監視機能を発揮しています。

取締役会

経営の基本方針、法令で定められた事項、そのほか経営に関する重要事項の審議・決定を行うとともに、取締役の業務執行状況の監督を行っています。

経営会議

意思決定の迅速化と業務運営の効率化を図るための取締役会に付議すべき事項の審議、および取締役会の決定方針に基づく具体的な執行方針やそのほか経営に関する重要な業務執行についての審議・決定を行っています。

監査役会・内部監査・会計監査

監査役会は2人の社外監査役を含む4人の監査役で構成されており、各監査役は監査役会が定めた監査の方針・業務分担に従い、取締役会などへの出席、稟議書などの重要な資料の閲覧、子会社を含む事業所に赴くことなどにより、取締役の職務執行について監査しています。

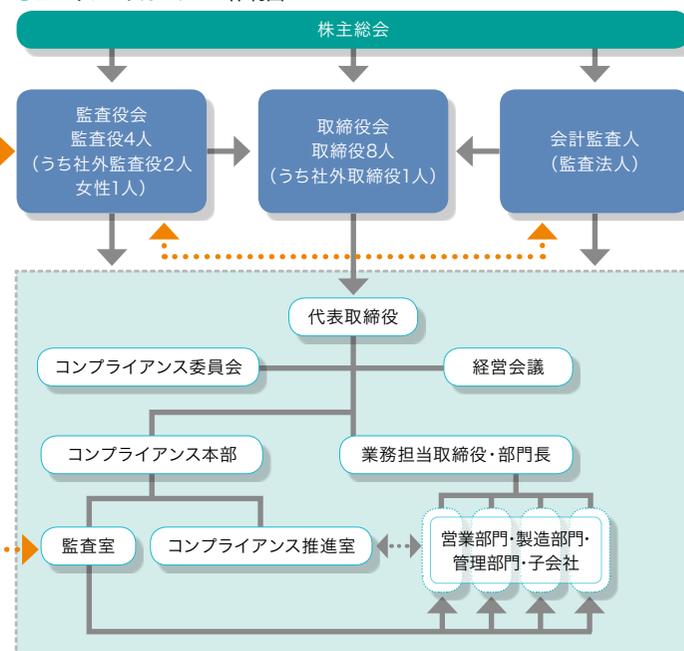
内部監査部門は、法令遵守状況を定期的および必要に応じ確認しています。また、監査役との連携を図り、監査役の効果的な監査業務の遂行に協力しています。

会計監査は、有限責任監査法人トーマツを監査人に選任し、監査を受けています。また、監査報告会を開催し、監査役会は会計監査人から監査実施状況、監査実施結果などの説明を受けるとともに、会計上と内部統制上の諸問題について助言を得ています。

内部統制システム

当社では、取締役の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制、そのほか株式会社の業務ならびに当該株式会社および子会社からなる企業集団の業務の適正を確保するための体制について、「内部統制の基本方針」を定めています。この方針に基づき金融商品取引法に定める財務報告に係る内部統制について、当社および連結子会社における整備・運用の評価を行い、その結果を内部統制報告書として公表しています。

コーポレートガバナンス体制図



コンプライアンス

基本的な考え方

アキレグループでは、法令・定款を遵守し倫理を尊重する企業活動を基本原則として「企業行動憲章」を制定し、さらに具体的な基準として「行動規範」を定めています。役員および嘱託・パートタイマーなどの臨時従業員を含む全ての従業員に対して、「企業行動憲章」を理解し「行動規範」を守ることを求めています。

企業行動憲章

アキレグループは、新たな価値を創り続けていくことで、豊かで快適な社会づくりに貢献し、高い信頼を得る企業を目指します。アキレグループは、次の原則に基づき、国の内外において、人権を尊重し、関係法令、国際ルールおよびその精神を遵守しつつ、持続可能な社会の創造に向けて、高い倫理観をもって社会的責任を果たしていきます。

- 1 市場・顧客ニーズの的確な把握に努め、安全性・品質・信頼性において優れた製品・サービスを開発・提供し、お客様の真の満足と信頼を獲得します。
- 2 公正、透明、自由な競争ならびに適正な取引を行います。また、政治、行政との健全かつ正常な関係を保ちます。
- 3 ステークホルダーはもとより、広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示します。また、自社の情報・知的財産・資産の保護・管理を適切に行うとともに、お預かりした個人情報・顧客情報など各種情報の保護・管理を適正に行います。
- 4 従業員の多様性、人格、個性を尊重するとともに、安全で働きやすい健康的な職場環境を確保し、ゆとりと豊かさを実現します。
- 5 環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の存在と活動の必須の要件として、環境負荷の低減に主体的に活動します。
- 6 地域社会の「良き企業市民」としての責任を果たすべく、社会貢献活動に取り組み、豊かで快適な社会づくりに努めます。
- 7 市民社会の秩序と安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは断固として対決し、関係遮断を徹底します。
- 8 事業活動のグローバル化に対応し、各国・地域の法令の遵守、人権を含む各種の国際規範の尊重はもとより、文化や慣習、ステークホルダーの関心に配慮した事業活動を行います。

アキレグループの役員は、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範の上、その徹底を図ります。また、社内外の声を常時把握し、実効ある社内体制を整備・運用します。

本憲章に反するような事態が発生したときには、経営トップ自らが問題解決にあたる姿勢を内外に明らかにし、原因究明、再発防止に努め、適切に是正措置と処分を行います。

コンプライアンス推進活動

2016年度の主な取り組みは以下の通りです。

- ①コンプライアンス研修の実施
 - ・テーマ「ソーシャルメディア利用時の行動指針」
 - ・テーマ「人権尊重およびダイバーシティ&インクルージョンの必要性」
- ②コンプライアンス・チェックノートによる法令遵守の啓蒙（国内製造部門全従業員）
- ③ホットライン（内部通報制度）ポスターを掲示（国内全事業場）
- ④その他法令などの改正に伴う規定の適宜見直しと従業員への周知



本社（東京都）でのコンプライアンス研修

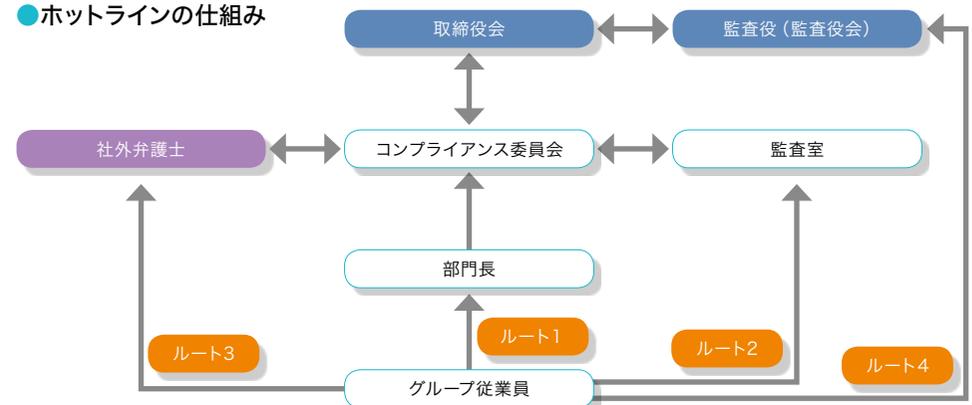
通報・相談制度

アキレグループは、組織または個人による不正・違法・反倫理行為・アキレ行動指針に反する行為の発生、またはその恐れがあると判断したときに相談、あるいは通報することができる仕組みとしてホットライン（内部通報制度）を整備・運用しています。当社グループの取締役など経営層に関する事項を対象とした監査役直通の窓口を設けるなど受付窓口を複数設置することにより、違法行為などの早期発見と是正を図り、会社のリスクを最小限に抑えるよう努めています。また通報者が不利益な扱いを受けないことを社内規定で担保しています。

ホットライン以外にも、不定期に社内アンケートなどを実施・調査しているほか、「その他相談窓口」を全国4拠点に設け、従業員からの相談を受けています。

ホットライン、その他相談窓口、不定期アンケートにより確認された人権侵害については、定期的に開催しているコンプライアンス委員会にて協議の上、適切な対策を実施しています。

●ホットラインの仕組み



CSR マネジメント

CSRの基本方針

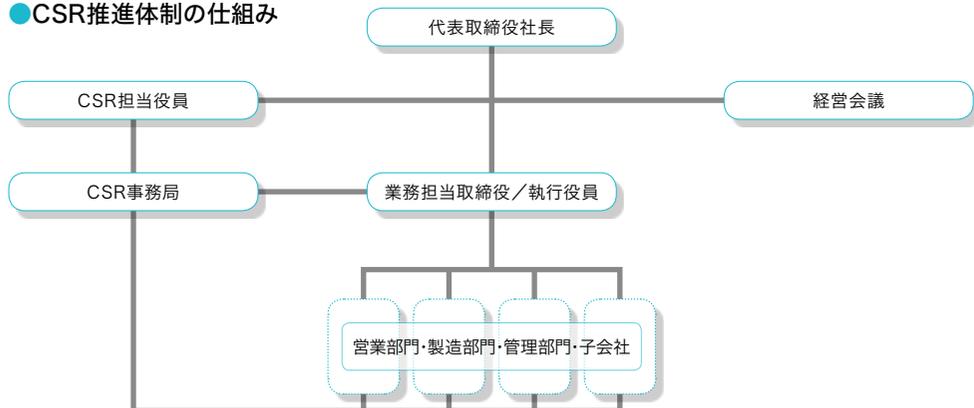
アキレスグループは、社会の一員としてステークホルダーとの対話を通じて、社会的課題の解決に役立つ活動の拡大に努め、社会の持続的発展に貢献します。

この方針のもと、7つの課題を「アキレスのCSR重要テーマ」と位置づけ事業活動を推進します。

CSR推進体制

当社は企業理念である「社会との共生」＝「顧客起点」の実践こそが、当社のCSR戦略と位置づけ、業務担当取締役および執行役員が率先して企業理念に資する活動を推進できるよう、CSR担当役員がサポートしています。またCSR活動の推進および報告書の作成作業を行うCSR事務局は、コンプライアンス推進室と安全環境推進部が担い、CSR活動の支援および報告書の制作を行っています。

CSR推進体制の仕組み



アキレスのステークホルダー

主なステークホルダー	アキレスグループの主な責任と課題	主な対話および情報開示の機会
お客様	<ul style="list-style-type: none"> ●お客様満足度の向上 ●安心・安全な製品・サービスの提供 ●製品の取扱方法などに関する適切な情報提供 ●お客様への迅速かつ適切な対応 ●お客様（個人）情報の適切な管理 	<ul style="list-style-type: none"> ●日常の営業活動（常時） ●お客様相談室（お電話・メール受付）の設置（営業時間内常時） ●ホームページ（常時） ●イベント（展示会など）の開催（随時） ●「子育て（そくいく）」相談会
株主・投資家	<ul style="list-style-type: none"> ●適時・適切な情報開示 ●企業価値向上 ●議決権行使の尊重（株主総会） ●IR活動 	<ul style="list-style-type: none"> ●ホームページ（常時） ●決算短信の発行（年4回） ●四半期報告書と有価証券報告書の発行（年4回） ●株主様への報告書の発行（年2回） ●定時株主総会の開催（年1回） ●「アキレスのCSR」（CSR報告書）の発行（年1回）
取引先	<ul style="list-style-type: none"> ●公正・公平な取引 ●オープンな取引機会 ●CSR推進への協力要請・支援 ●適切な情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ●日常の調達活動（常時） ●イベント（展示会など）の開催（随時） ●情報交換会（随時） ●CSR調達アンケート
従業員	<ul style="list-style-type: none"> ●人権の尊重 ●労働安全衛生への配慮 ●ワークライフバランスの促進 ●労使の相互信頼 	<ul style="list-style-type: none"> ●労使協議会（随時） ●トップからのダイレクトコミュニケーション（随時） ●集合研修（随時） ●講演会の開催（随時） ●社内報
地域社会	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の文化や慣習の尊重 ●事業場での事故・災害防止 ●地域社会への貢献活動 ●環境負荷低減 ●法令遵守 ●納税 	<ul style="list-style-type: none"> ●工場見学の実施（随時） ●ボランティア参加を含む社会貢献活動の実施（随時） ●地域自治体との交流・意見交換（随時） ●ヒアリング対応・情報提供など（随時） ●産学官での協働などを通じた対話・連携・支援（随時）

顧客満足に徹した「戦略的CSR」

山田敏之

大東文化大学経営学部教授(博士(商学))

CSR活動と本業の位置づけ

アキレス社のCSR報告書は、「『顧客起点』のもと、お客様の真の満足と感動を戴ける製品の創造とサービスの提供を通して、豊かな社会の実現に貢献する」というアキレスグループの経営理念に基づき、企業、社会、未来に対して新たな価値を創造することに重点を置いて、全てのステークホルダーとの相互信頼の構築をいかに実現していくかを示したものとなっています。この点が、まずはトップのメッセージとして明確に示されています。企業の本質的活動がイノベーション(新たな価値の創造)であるならば、アキレス社では本業の中にいかにCSRを位置づけていくかを考える点に大きな特徴があります。これにより、CSR活動を本業とは別のものとして乖離させてしまう危険性を回避し、全従業員が当事者意識をもって取り組める自律的活動として成果を上げていくものと考えられます。このような考え方は、世界的に進められている財務情報とCSR関連の情報を統合した『統合報告書』への進展を期待させるものでもあります。

「戦略的CSR」を成す7つのテーマ明示

今年度の報告書における特筆すべき点は、CSR活動の一層のステップアップを図るため、ISO26000に基づき、アキレス社にとってのCSRの重要テーマを7つの中核課題として明示している点にあります。具体的には①製品・サービスを通じた真の満足と感動の提供、②環境への取り組み、③取引先との協働、④人権や多様性の尊重とグローバル人材の育成、⑤安全で働きやすい健康的な職場環境、⑥地域との関わりと社会貢献活動、⑦ガバナンス・リスクマネジメントです。これら7つのテーマを抽出するためにアキレ

ス社ではCSR関連の主要部署が集まり、CSR活動の現状把握、課題抽出、認識の共有を行いながら、テーマごとの活動を洗い出した上で、自社にとっての重要度の高い取り組みを策定しています。CSRは広大な領域に渡りますが、業種、製品特性などが異なれば、当然重要なポイントも変わってきます。このようにアキレス社のCSRは、網羅的に全ての項目に取り組むのではなく、ウェイト付けを行うことで「戦略的CSR」とも呼べる特徴をもっていると言えるでしょう。また、これら重要課題を抽出する中で、部門・部署の壁を越えた社内での交流が促され、風通しの良い組織風土づくりにも貢献するものと考えられます。ともすれば縦割りのセクショナリズムに陥りがちな部門・部署間にCSRの活動が横断を通す契機にもなっているのです。

信頼のおける「透明性」

7つの重要課題の中では特に、環境への取り組みにおいて、明確な数値目標が設定され、PDCAを回しながら活動を進めている状況が図表やグラフによって視覚的に提示されており、非常に分かりやすいものとなっています。とりわけ、環境事故などに対する是正措置では外部苦情の具体的な件数を挙げながら、どのような是正措置をとったのかが開示されています。一見、自社にとって都合の悪い情報であっても開示していくことで、透明性をもった組織風土が醸成され、社内外との相互信頼の構築へもつながると考えられます。

昨今、問題となっている従業員の働き方改革の面においても、労働安全衛生の考え方が明示され、「労働災害の状況」「安全意識の啓発」「健康管理」など、安全衛生管理に関する具体的活動への取り組みが行われています。イノベーション実現の源泉は、従



プロフィール

2006年慶應義塾大学商学研究科博士課程単位取得退学。2007年大東文化大学経営学部准教授を経て2012年より現職。専門は経営戦略論、経営組織論、CSR。日本経営学会、組織学会、日本経営倫理学会等に所属。著書は『企業倫理の再生と組織の学習メカニズムに関する理論的考察』(博士論文)、『コア事業転換のマネジメント』(共著)、『マネジメント力の養成』(共著)など。

業員の創造性の発揮にあります。その基盤を形成する人権、多様性、人材開発といった側面でも地道な取り組みが続けられていることが分かります。

また、社会の直面する課題解決への取り組みは、CSRと本業を直接結びつけるものであります。アキレス社では「環境配慮型製品の開発」「多様性への取り組み」「老朽インフラの保守整備、救命・防災に貢献する製品、健康配慮の製品の開発」など、幅広い分野での取り組みが事例を用いて示され、理解しやすい工夫がなされています。

よりイノベティブなCSR戦略の実践をめざして

一方、今後は環境への取り組み以外の項目についても、中・長期的な視点から適宜目標の設定を行うことが必要となってくるでしょう。また、自社の取り組みについては詳細に記載されていますが、海外のグループ会社を含めたグループ全体での活動の視点がやや少ないように思われます。事業活動がグローバルに展開される中、今後はこの点を報告書の中に盛り込むことも必要と考えられます。さらに、内部の取り組みだけでなく、多様なステークホルダーとの対話、CSRの重要課題についてのステークホルダーの意見や声などを報告書に取り込むことで、より社会に開かれたオープンな会社になっていくと思われます。最後に、報告書の形式面でみると、目次(コンテンツ)と今回抽出されたCSRの7つの重要課題との対応関係がより明確であると、さらに読みやすいものになるでしょう。

グローバルな視野をもったイノベーションにつながる「戦略的CSR」の実践を期待致します。

2016年度「足育(そくいく)」活動 出前講座 実績一覧

(実施総数 45 回、受講者総数 2,192名)

実施日	実施会場	参加人数など	講義のポイント、ご参加者の反応や感想等
2016年6月16日	埼玉県鴻巣市立鴻巣南小学校	保護者の方・教職員の方 計 25 名	学校保健委員会の報告書にも講義内容をご掲載頂き、全児童のご家庭にも配布されました
2016年6月20日	埼玉県飯能市立飯能第二小学校	保護者の方・教職員の方 計 20 名	参加者からの質問が事前に集まり、講義後の質疑応答も活発に行われました
2016年6月21日	埼玉県所沢市立宮前小学校	保護者の方・教職員の方 計 40 名	保護者の皆様から「ためになった」等の多数の感想が学校保健委員会の報告書に寄せられました
2016年6月29日	埼玉県飯能市立原市場小学校	児童・保護者の方・教職員の方 計 45 名	授業参観日に合わせて、講義を実施しました
2016年7月7日	埼玉県越谷市立大袋東小学校	保護者の方・教職員の方 計 50 名	学校医も参加し、体力測定結果の報告も行われました
2016年7月11日	埼玉県川口市立上青木中学校	生徒・保護者の方・教職員の方 計 50 名	「学校保健委員会だより」に講義内容をご掲載頂き、生徒の皆様からも多数の感想を頂きました
2016年7月13日	千葉県八街市教育委員会社会教育課	高齢者学級の皆さん 計 40 名	皆様、本当にご熱心に受講して頂き、シニア層向けの講座の必要性を実感しました
2016年7月14日	東京都文京区立駕籠町小学校	児童・保護者の方・教職員の方 計 75 名	「児童対象」と「保護者対象」との二部に分けて実施させて頂きました
2016年9月7日	埼玉県草加市立稲荷小学校	保護者の方・教職員の方 計 40 名	瞬足への関心度の高さを再認識しました
2016年9月14日	千葉県柏市立風早南部小学校	保護者の方・教職員の方 計 15 名	女性の足に多くみられる「外反母趾」についての質問も多く寄せられました
2016年9月15日	東京都 東中野キングスガーデン	乳幼児・保護者の方 計 20 名	乳幼児(参加した保護者のお子様)の足の様子を実際に確認しながら、座談会的に実施しました
2016年9月16日	東京都世田谷区立中町幼稚園	保護者の方・世田谷区教育委員会の方 計 37 名	幼稚園の仲よしの会長様(保護者の方)から、ご丁寧なお礼状を頂きました
2016年9月20日	東京都足立区立包括支援センター	介護予防教室の皆さん 計 40 名	アンケートの集計結果より、高齢者も、足や靴への関心が非常に高い事が分かりました
2016年9月21日	千葉県八街市教育委員会社会教育課	高齢者の皆さん・高齢者福祉関連の皆さん 計 62 名	八街市で7月に行ったシニア層向けの講座が好評につき、リクエストを受けて今回こちらでも実施しました
2016年9月30日	埼玉県越谷市立彦郷小学校	保護者の方・教職員の方 計 15 名	学校歯科医の方もご参加され、「足育(そくいく)」の重要性に、ご賛同頂きました
2016年10月13日	埼玉県所沢市立まつば児童館	幼児・保護者の方 計 25 名	幼児期の足の成長や靴選びの大事さに、強い関心が寄せられました
2016年10月17日	千葉県柏市立第六小学校	保護者の方・教職員の方 計 35 名	学校医の方もご参加されました
2016年11月4日	埼玉県和光市立北原小学校	保護者の方・教職員の方 計 45 名	同小学校のホームページでも、講義の様子が紹介されました
2016年11月7日	埼玉県新座市立陣屋小学校	保護者の方・教職員の方 計 65 名	足型測定を実演しました
2016年11月18日	埼玉県越谷市立大袋小学校	保護者の方・教職員の方 計 30 名	参加者にペアを組んでもらい、足型測定を実際に体験して頂きました
2016年11月24日	埼玉県東松山市立新明小学校	保護者の方・教職員の方 計 35 名	正しい歩き方(あおり歩行)の実演を行いました
2016年11月28日	埼玉県川口市立辻小学校	児童・保護者の方・教職員の方 計 80 名	参加児童(体育委員)の足型測定を行いました
2016年12月6日	埼玉県所沢市立中央小学校	保護者の方・教職員の方 計 30 名	ご参加された方々より、直筆の感想文を多数頂きました
2016年12月12日	埼玉県鴻巣市立鴻巣中央小学校	保護者の方・教職員の方 計 30 名	学校医の方々が4名ご参加され、「足育(そくいく)」に関して高い関心を持って頂きました
2016年12月22日	埼玉県戸田市立新曾小学校	保護者の方・教職員の方 計 55 名	近隣の新曾北小学校、新曾中学校からもご参加頂きました
2017年1月13日	埼玉県志木市立志木第三小学校	保護者の方・教職員の方 計 55 名	校長先生と保健指導の先生から「体育館履き」の必要性に関して質問を受け、お答えしました
2017年1月16日	埼玉県新座市立栗原小学校	保護者の方・教職員の方 計 30 名	教職員の皆様からも多数の質問が寄せられました
2017年1月19日	千葉県八街市立川上幼稚園	保護者の方・教職員の方 計 20 名	講義後、同園でボランティア活動をされていた方々にも、講義内容をお話させて頂きました
2017年1月24日	埼玉県草加市立清門小学校	保護者の方・教職員の方 計 75 名	学校薬剤師の先生からも、加齢による足の変化のお話を頂きました
2017年1月25日	千葉県柏市立風早北部小学校	保護者の方・教職員の方 計 20 名	「扁平足」や「タコ・魚の目」など、足のトラブルに関する質問がありました
2017年1月27日	埼玉県日高市立高根中学校	生徒・保護者の方・教職員の方 計 35 名	正しい靴の履きかた、歩幅を変える事などで、足指の使い方に違いが出る実体験をして頂きました
2017年1月31日	埼玉県鴻巣市立小谷小学校	保護者の方・教職員の方 計 20 名	大き過ぎる靴の欠点についてもお説明しました
2017年2月1日	埼玉県小鹿野町立小鹿野中学校	生徒・保護者の方・教職員の方 計 30 名	大勢の生徒を対象にした講義を、改めて実施して欲しいとのご要望を受けました
2017年2月1日	埼玉県加須市立大越小学校	児童・保護者の方・教職員の方 計 85 名	学校保健委員(児童)による「靴と足の調査」発表も行って頂きました
2017年2月3日	埼玉県所沢市立伸栄小学校	保護者の方・教職員の方 計 47 名	足型計測の方法を実演しました
2017年2月6日	埼玉県越谷市立弥栄小学校	保護者の方・教職員の方 計 30 名	企業による「食育」の講座はあるが、「足育(そくいく)」というテーマは新鮮との感想を頂きました
2017年2月7日	埼玉県鴻巣市立鴻巣北小学校	保護者の方・教職員の方 計 36 名	学校医の方もご参加され、それぞれ足や靴に関するお話を頂きました
2017年2月9日	埼玉県ふじみ野市立鶴ヶ丘小学校	保護者の方・教職員の方 計 30 名	学校保健委員(児童)の方より、「体」「病氣」「けが」についての発表も行って頂きました
2017年2月15日	埼玉県幸手市立さかえ小学校	児童・保護者の方・教職員の方 計 90 名	児童および保護者の方々より、多数の感想文を頂きました
2017年2月16日	埼玉県さいたま市立与野本町小学校	保護者の方・教職員の方 計 30 名	教頭先生より、「足育(そくいく)」も「食育」と同様、児童にとって大切な取り組みであるとの感想を頂きました
2017年2月17日	埼玉県川口市立里小学校	児童・保護者の方・教職員の方 計 80 名	ご参加頂いた学校保健委員(児童)の皆様全員で、履いている上履きのサイズのチェックを行いました
2017年2月20日	埼玉県所沢市立林小学校	保護者の方・教職員の方 計 35 名	ご参加された先生より、子供のケガの予防の為に、サイズ選びが重要との感想を頂きました
2017年2月22日	埼玉県朝霞市立朝霞第四中学校	生徒・保護者の方・教職員の方 計 380 名	ご参加頂いた方々全員で、靴の正しい履き方の練習を行いました
2017年2月24日	埼玉県ふじみ野市立亀久保小学校	保護者の方・教職員の方 計 30 名	靴の正しい履き方に関心が寄せられました
2017年3月6日	埼玉県新座市立八石小学校	保護者の方・教職員の方 計 30 名	先生より、正しい靴の履き方を、児童にしっかり指導したいとの感想を頂きました

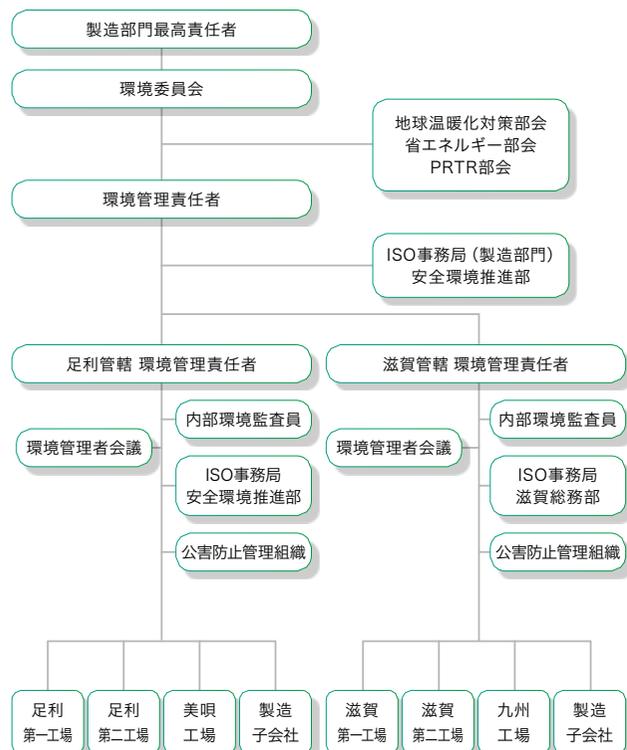


環境マネジメントシステム

ISO-14000：2004 認証取得事業場 JUSE-EG-661

■ アキレス(株)足利第一工場	2001年9月 拡大取得
■ アキレス(株)足利第二工場	2000年7月 認証取得
■ アキレス(株)滋賀第一工場	2002年9月 拡大取得
■ アキレス(株)滋賀第二工場	2002年9月 拡大取得
■ アキレス(株)美唄工場	2002年9月 拡大取得
■ アキレス(株)九州工場	2002年9月 拡大取得
■ アキレスマリン(株)	2001年9月 拡大取得
■ アキレスウエルダー(株)	2001年9月 拡大取得
■ 関東アキレスエアロン(株)	2001年9月 拡大取得
■ 大阪アキレスエアロン(株)滋賀営業所	2002年9月 拡大取得
■ 北海道アキレスエアロン(株)	2002年9月 拡大取得

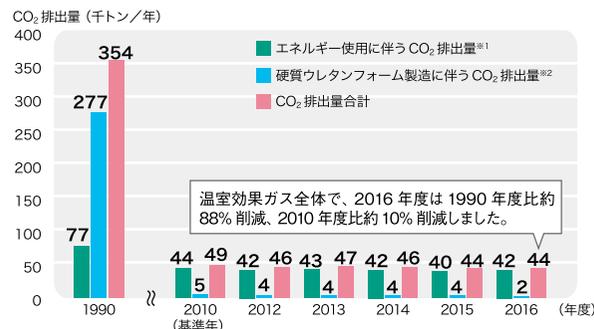
環境管理推進組織



【対象範囲】 ISO-14000：2004 認証取得事業場

地球温暖化対策

温室効果ガス排出量推移



※1 エネルギー使用に伴うCO₂排出量は、事業活動に関わるエネルギー（燃料、電気など）に伴い発生するCO₂です。またCO₂排出量は、地球温暖化対策推進法（改正温対法：2006年4月施行）に基づく算出方法・排出係数一覧から算出したものです。なお東日本大震災以降、原発停止により天然ガス（火力発電）使用が増え、電気事業者の排出係数が大幅に大きくなったことから、2010年度以降は2010年度の排出係数で算出しています

※2 硬質ウレタンフォーム製造に伴うCO₂排出量は、原液製造時および発泡時に漏洩するフロン系をCO₂換算したものです。またフロン系の地球温暖化係数（CO₂換算係数）は、IPCCの4次レポートから準用し、自主的に算出したものです

【対象範囲】 アキレス(株)足利第一工場、足利第二工場、滋賀第一工場、滋賀第二工場、美唄工場、九州工場/アキレスマリン(株)/アキレスウエルダー(株)

輸送に伴う二酸化炭素排出量・モーダルシフト率

項目 (単位)	2015年度	2016年度	前年度比
輸送トンキロ ^{※1} (千トンキロ)	73,570	78,853	107.2%
発生するCO ₂ の排出量 (t-CO ₂) ^{※2}	9,847	10,466	106.3%
モーダルシフト ^{※3} 率	16.8%	17.7%	0.9ポイント向上

※1 輸送トンキロ=貨物重量「トン」×輸送距離「キロメートル」

※2 CO₂の排出量 (t-CO₂)=エネルギー使用量 (GJ)×排出係数 (経済産業省より)

※3 モーダルシフト：貨物輸送をトラックから鉄道や船に変えることです。一度に大量の貨物を輸送することができ、CO₂排出量を抑える効果が期待されています。

【対象範囲】 ISO-14000：2004認証取得事業場

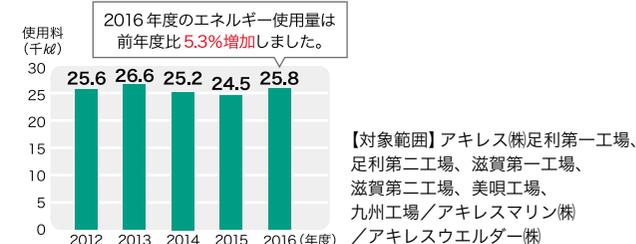
太陽光発電設備

	設備容量 (kW)	発電電力量 (千 kWh / 年)	CO ₂ 削減量 [※] (t-CO ₂ / 年)
足利第二工場	529	635	206
滋賀第二工場	1,006	1,155	495
合計	1,535	1,790	701

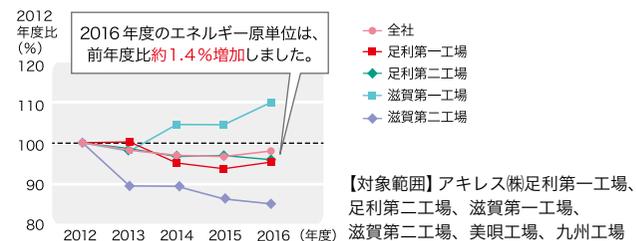
※足利第二工場は東京電力、滋賀第二工場はエネットの電気事業者排出係数（2010年）を使用

省エネルギー

エネルギー使用量（原油換算）の年度別推移



全社および管理指定工場ごとのエネルギー原単位の年度別推移

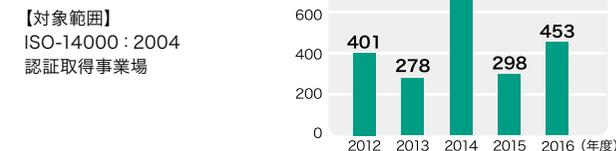


設備の改造・導入の主な内容と使用エネルギー削減効果（原油換算値）

内容	削減効果 (kt / 年)
配管・バルブなどの保温強化、蒸気漏れ防止	70
貫流ボイラー更新による省エネ	50
LED照明・Hf蛍光灯の採用	40
コンプレッサーの更新、エアー漏れ防止	20
変電所での高効率変圧器への更新	20
トップランナー空調設備への更新	10
その他（ポンプ・モーターのインバータ化など）	50
合計	260

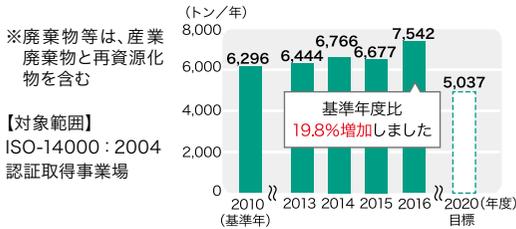
【対象範囲】 ISO-14000：2004 認証取得事業場

年度別環境関連設備投資費用（過去5年間）

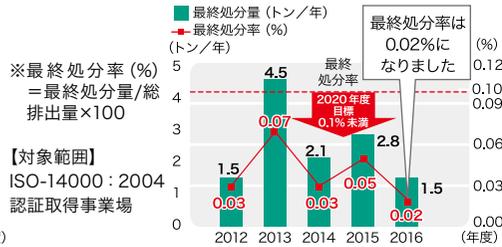


3R活動と完全ゼロエミッション

●廃棄物等総排出量*

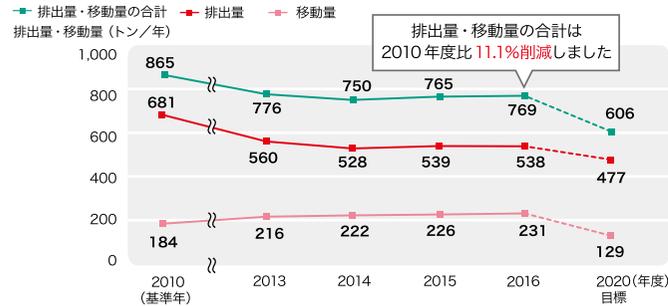


●最終処分量および最終処分率**

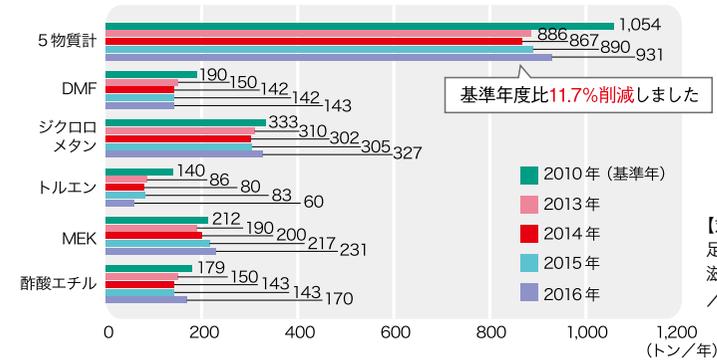


大気汚染防止 (環境負荷物質)

●PRTR**法対象化学物質の排出量・移動量



●環境負荷5物質の大気排出量



事業場別データ (2016年4月～2017年3月)

PRTR**データ

PRTR法対象第一種指定化学物質名	足利第一工場			足利第二工場			美唄工場			アキレスマリン(株)		
	排出量	移動量	廃棄物	排出量	移動量	廃棄物	排出量	移動量	廃棄物	排出量	移動量	廃棄物
アンチモン及びその化合物	0.00	0.00	2.50	0.00	0.00	0.05	-	-	-	-	-	-
キシレン	0.34	0.00	0.02	2.60	0.00	0.14	-	-	-	-	-	-
ジクロロメタン (塩化メチレン)	160.00	0.00	1.70	3.90	0.00	0.23	14.00	0.00	1.00	-	-	-
N,N-ジメチルホルムアミド (DMF)	140.00	0.65	3.40	-	-	-	-	-	-	-	-	-
m-トリレンジイソシアネート	0.10	0.00	0.68	-	-	-	0.00	0.00	0.00	-	-	-
トルエン	50.00	0.00	2.20	7.80	0.00	0.41	-	-	-	2.20	0.00	0.00
フタル酸ビス (2-エチルヘキシル)	0.97	0.00	22.00	0.17	0.00	120.00	-	-	-	-	-	-
メチレンビス (4,1-フェニレン) =ジイソシアネート	0.00	0.00	3.80	0.00	0.00	0.36	0.00	0.00	0.54	-	-	-

PRTR法対象第一種指定化学物質名	滋賀第一工場			滋賀第二工場			九州工場		
	排出量	移動量	廃棄物	排出量	移動量	廃棄物	排出量	移動量	廃棄物
キシレン	0.38	0.00	0.00	-	-	-	-	-	-
ジクロロメタン (塩化メチレン)	-	-	-	150.00	0.00	7.00	0.22	0.00	0.00
トリレンジイソシアネート	-	-	-	0.09	0.00	0.00	-	-	-
トルエン	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-	-	-
フタル酸ビス (2-エチルヘキシル)	0.67	0.00	60.00	-	-	-	-	-	-
トプロモアロバン	-	-	-	0.08	0.00	3.00	-	-	-
ポリ (オキシエチレン) =ニルフェニルエーテル	-	-	-	0.00	0.00	0.04	0.00	0.00	0.01
メチレンビス (4,1-フェニレン) =ジイソシアネート	-	-	-	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.80
リン酸トリフェニル	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.02	-	-	-

PRTR法該当物質：2016年度の年間取引量1トン以上の第一種指定化学物質のうち、排出量・移動量が多い上位物質のみ掲載 (単位：トン/年)

横線の物質は報告対象外 (取扱量1トン/年未満)

※Pollutant Release and Transfer Register：有害性のある多種多様な化学物質が、どこから、どのくらい、環境中に排出されたか、廃棄物として移動したかを把握し、集計・公表する仕組み

●水質

測定項目	単位	基準値 ^{※2}	足利第一工場	足利第二工場 No.1 ^{※1}	足利第二工場 No.2 ^{※1}	基準値 ^{※2}	滋賀第一工場 No.1 ^{※1}	滋賀第一工場 No.2 ^{※1}	基準値 ^{※2}	滋賀第二工場
水素イオン濃度 (PH)	PH	5.8～8.6	7.13	7.28	7.22	6.0～8.5	7.5	7.6	6.0～8.5	7.9
生物学的酸素要求量 (BOD)	mg/l	25	1.78	1.81	1.62	25	1.1	1.8	30	1.0
浮遊物質 (SS)	mg/l	50	2.18	6.58	1.67	25	8.1	1.8	70	2.5
ノルマルヘキサン抽出物質含有量	mg/l	5	0.5未満	0.5未満	0.5未満	5	0.5未満	0.5未満	5	0.5未満
窒素含有量 (T-N)	mg/l	120	3.34	3.43	3.39	12	0.54	0.58	12	3.0
リン含有量 (T-P)	mg/l	16	0.1未満	0.1未満	0.1未満	1.2	0.05未満	0.57	1.2	0.05未満

※1 水質は、足利第二工場は2カ所、滋賀第一工場は2カ所で測定されたものです。

※2 基準値は各事業場所在地の条例によるものです。

●大気

測定項目	単位	基準値	足利第一工場	基準値	滋賀第一工場
SOx (ボイラー)	K 値規制	7	-	17.5	-
NOx (ボイラー)	ppm	150	26	150	65

都市ガス使用のため、SOxの排出なし

アキレスのCSR 2017

発行日：2017年9月 発行：アキレス株式会社

お問い合わせ先

【コンプライアンス推進室】

〒169-8885 東京都新宿区北新宿2-21-1 新宿フロントタワー
TEL:03-5338-8232 FAX:03-5338-8250

【安全環境推進部】

〒326-8511 栃木県足利市借宿町668
TEL:0284-73-9148 FAX:0284-73-9854